

山陰の 近世・近代 遺跡

山陰の近世・近代遺跡

～地方の文化と、近代化への軌跡～



山陰道蒲生峠越



やなしお道



鳥取城跡附太閤ヶ平



松江城天守閣



櫻井家本宅跡・南東隅石垣



池田家墓所(撮影:前田重雄さん)

山陰の近世・近代遺跡

—地方の文化と、近代化への軌跡—

はじめに

近世、日本各地には大名が治める「藩」と呼ばれる統治機構が存在していました。それぞれの「藩」では、幕府の権力の枠内で、ある程度独立した統治が行われていました。山陰両県には津和野藩、浜田藩、松江藩、鳥取藩などがありました。各藩では、それぞれ独自の政治、経済、文化が発展し、まるで小さな国のように機能していました。明治維新を経て近代になると、「藩」は廃止され、中央集権が進められました。明治政府は首都である東京に様々な機能を集中させ、近代化を推し進めました。

このガイドブックでは、近世の面影を残す遺跡、幕末の混乱を表す遺跡、近代化へ躍動を感じさせる遺跡を紹介しています。これらの遺跡を巡り、近世や近代の特色を実感してみたいと思います。

年表

西 暦	元 号	主な出来事
1600	慶長五年	関ヶ原の戦いで徳川氏が勝ち、大名の領地替えが行われる。
1603	慶長八年	徳川家康が征夷大将軍となり、江戸幕府を開く。
1614	慶長十九年	大阪冬の陣が勃発する。
1615	元和元年	(四月)大阪夏の陣が勃発し、豊臣氏が滅亡する。(閏六月)一国一城令が發布され、各地で不要な城が破棄される。(七月)武家諸法度が發布される。
1616	元和二年	中国船以外の外国船の寄港地が長崎・平戸に限定される。
1633	寛永十年	奉書船以外の海外渡航と、海外に5年以上居留する日本人の帰国が禁止される。
1635	寛永十二年	外国船の寄港地が長崎に限定され、日本人の海外渡航と帰国が禁止される。
1825	文政八年	異国船打払令が發布される。
1853	嘉永六年	ペリーが浦賀に来航する。
1854	安政元年	幕府は日米和親条約に調印し、下田と函館を開港する。
1858	安政五年	幕府は日米修好通商条約に調印する。
1864	元治元年	幕府は長州藩を攻め、長州藩は恭順の意を示す。
1866	慶応二年	幕府は再度長州藩を攻めたが失敗し、将軍の死を理由に長州藩への攻撃を中止する。
1867	慶応三年	第15代将軍徳川慶喜が朝廷に大政を奉還し、朝廷は王政復古を宣言する。
1868	明治元年	戊辰戦争が勃発する。(～69.5)
1869	明治二年	版籍奉還が行われる。
1871	明治四年	廃藩置県が行われ、府県制が始まる。



津和野城城山

石見国の近世・近代遺跡	02
出雲国の近世・近代遺跡	10
隠岐国の近世・近代遺跡	14
近世の街道	16
近世の製鉄遺跡	18
伯耆国の近世・近代遺跡	24
因幡国の近世・近代遺跡	34
近世・近代遺跡用語解説	44
図・写真を引用した主な文献 等	45

戦国時代の終焉

慶長五年(1600)、関ヶ原の戦いで、徳川家康は東軍を率いて石田三成を中心とする西軍に勝利し、天下の実権を握ることに成功しました。戦後、徳川氏は西軍に属した大名の領地を没収し、東軍に属した大名を配置しました。山陰では毛利氏や吉川氏などの領地が没収され、堀尾氏や中村氏などが配置されました。徳川家康は、慶長八年(1603)に征夷大将軍となり江戸幕府を開き、慶長十九年(1614)の大阪冬の陣、元和元年(1615)の大阪夏の陣を経て豊臣氏を滅ぼしました。同年閏六月「一国一城令」(一つの藩には大名が拠点とする城を一つだけ残して、その他の城は廃城にする法令)、7月「武家諸法度」(幕府が諸大名を統制する内容の法令)を發布し、支配体制を固め、長きにわたる戦乱の時代に幕を引きました。

発展する社会

各地を治めた大名達は、拠点となる城や城下町を整備しました。城下町は政治の中心でしたが、経済の中心でもありました。城下町には多くの家臣達が集住しましたが、生産活動を行わない彼らは、給与として与えられる米を貨幣に換え、必要な物資を購入しなくては生活できませんでした。そのため城下町では、家臣達の生活を支えるための商工業が発展しました。また、各大名は気候風土にあった特産品の生産にも力を入れました。山陰を代表する特産品の一つに鉄がありました。山陰の各藩は鉄の生産統制などを厳しく行う一方で、手厚い保護助成も行い、製鉄業者を育成しました。これらの特産品などの往来に利用される、街道や沿岸航路は整備され、経済の発達を促しました。このような経済の発展により、商工業に従事する町民達の経済力は、城下町に住む武士達を圧倒するようになりました。

社会の発展は経済の面だけではなく、文化の面にも見られました。各藩が設立した「藩校」では藩士の子弟が藩を担う人材として育成され、「寺子屋」や「私塾」といった民間の教育施設では町民や農民が勉学に励みました。また陶芸や絵画など美術工芸も大きく発展しました。

幕末の動乱から近代へ

嘉永六年(1853)、ペリー提督が率いるアメリカ合衆国の艦隊が浦賀に来航し開国を要求しました。この事件をきっかけに「鎖国」と呼ばれる海禁政策は終わり、日本は国際社会の荒波に漕ぎ出すこととなりました。また、海防の意識の高まりから、各地で台場が築かれるのもこのころです。この過程で発展した「尊皇攘夷」という主張は、「倒幕運動」へと変貌していきました。やがて慶応三年(1867)大政奉還を経て、王政復古の大号令で江戸幕府は崩壊しました。この時、山陰の各藩は各々の立場から異なった対応をとり、幕末の動乱を乗り越えました。

幕府に変わり日本を主導することとなった明治政府は、明治二年(1869)に版籍奉還、明治四年(1871)に廃藩置県を実施し中央集権体制を整え、日本の近代化を推進しました。この近代化は西洋文化の吸収を伴い、産業や工業のみでなく、衣食住など様々な分野に影響を与えました。現在、山陰両県に残される近代遺跡や近代化遺産としての建造物などにもその影響を見ることができます。

県史跡

つわのはんこうようろうかん

〈津和野町〉

西周や森鷗外を生んだ藩校

津和野藩校養老館

【所在地】津和野町後田066番甲 【アクセス】「西周旧居前」バス停から徒歩すぐ/六日市ICから車で1時間

藩校養老館は亀井氏8代藩主矩賢（のりかた）が天明六年（1786）大阪から山口剛斎を迎え開設しました。嘉永二年（1849）に11代藩主茲監（これみ）が新たに国学や蘭医学科を設けました。この時、岡熊臣が制定した学則は皇国史観に立つ人間修養を説いたもので、津和野藩学のみどころとなりました。藩校からは西周や森鷗外、小藤文次郎などの偉人が輩出されました。現在は剣術道場や書庫などが残るのみです。剣術道場は津和野町立民俗資料館として資料を展示しています。



展示の様子



津和野町歴史民俗資料館
【電話】0856-72-1000
【開館時間】8:30~17:00
【休館日】12月~2月
開館期間中は毎週水曜日
【入館料】一般600円、中高生400円、小学生250円

町史跡

おかくまおみきゆうたく

〈津和野町〉

養老館学則を制定した日本の国学者

岡熊臣旧宅

【所在地】津和野町山下327 【アクセス】六日市ICから車で1時間10分

岡熊臣（1783~1851）は、富長山八幡宮の神官の長男として生まれました。村田春門について国学を学び、日本書紀の研究を行い「日本書紀私伝」をまとめました。文化十二年（1816）私塾「桜蔭館」を開設し、嘉永二年（1849）藩校養老館の初代国学教授として迎えられました。学則を制定し、津和野本学の礎を築きました。この旧宅に私塾「桜蔭館」は開設されました。木造茅葺の建物で、式台を設けています。



岡熊臣



岡熊臣旧宅



町史跡

とうじんやきかまあと

〈吉賀町〉

近世初期の陶器の窯跡

唐人焼窯跡

【所在地】吉賀町柿木村福川 【アクセス】六日市ICから車で40分

文禄・慶長の役で捕らえられた「李郎子」という陶工が、柿木村福川の杉ヶ峠の近くで、陶器を製造したと伝えられています。昭和五十六年度に発掘調査が行われ、階段状連房式の登り窯が発見されました。窯の周辺のもの（ゴミ捨て場）からは、素焼きの破片や、陶器の一部が発見されました。糞灰釉薬をつかった日常の陶器が主に焼かれ、一部茶の道具なども焼かれていたようです。、窯跡より約300m下ったところに李郎子の墓があります。



出土遺物

現在の窯跡の様子



市史跡

きしすえのはか および おおぎはらかんもんあと

〈益田市〉

近代日本の夜明けの地

岸静江の墓及び扇原関門跡

【所在地】益田市多田町390-4（岸静江の墓）、394-1（扇原関門跡） 【アクセス】益田駅から徒歩45分/益田駅から車で7分

岸静江は、第2次長州戦争に備えて関門の防備にあたった浜田藩士で、慶応二年（1866）六月十六日正午頃、村田蔵六（大村益次郎）率いる長州軍1500名に対し、わずかな兵と共に闘い壮絶な戦死を遂げました。岸の最期に感嘆した長州軍から費用が出され、多田地区民により手厚く葬られたのが「濱田藩岸静江墓」です。扇原は津和野藩と浜田藩の藩境にあたる当時の山陰道の要衝で、現在も境界を示す石標柱や番所の跡と思われる石垣が残っています。長州軍はこの石州口の戦いに勝利し、時代は一気に明治維新へと進みました。



岸静江国治の墓



扇原関所跡



国重要文化財

きゅうどうめんけじゅうたく

〈吉賀町〉

貴重な一般農家の住宅

旧道面家住宅

【所在地】吉賀町注連川764番地 【アクセス】六日市ICから車で10分

石見地方の一般農家の特徴を残した建物です。建築年代は不明ですが、様式手法から考えると18世紀後半を下らないものと考えられます。茅葺で桁行四間（7.88m）、梁行三間（6m）、入母屋造りの比較的小規模な住宅です。「おもて」と呼ばれる主室の正面は片壁付きの引戸になり古い形式を残しています。近世民家の数少ない石見地方にあって、豪農ではない庶民の住居が現存しており、大変貴重な文化財といえます。



旧道面家外観



内部の様子



県史跡

はまだじょうあと

〈浜田市〉

一國一城合後の近世城郭

浜田城跡

【所在地】浜田市殿町123番地10外 【アクセス】「殿町」バス停から徒歩で約5分/道の駅「ゆうひパーク浜田」から車で約10分

浜田城は、古田重治によって元和六年（1620）から約3年の歳月をかけて築城されたと伝わっています。浜田城下には、「浜田八町」と呼ばれる町人町が広がり、周囲には浜田浦と松原浦の直浦や外浦、瀬戸ヶ島といった湊がありました。

慶応二年（1866）第2次長州征伐の時、戦況の悪化のため、浜田藩が自焼退城したことで、その役割を終えました。



浜田城跡

●現在の地図と当時の浜田城郭の位置



■ 当時の海と川
■ 当時の城郭
赤字：城郭の位置関係
その他は現在の地図

- ①三重櫓 ②玉蔵 ③六間長屋 ④本丸一ノ門
- ⑤二の丸 ⑥出丸 ⑦堀蔵 ⑧中ノ門 ⑨奥門
- ⑩大手門 ⑪御殿 ⑫南御殿 ⑬茶屋 ⑭庭園
- ⑮船蔵

世界遺産

国史跡

県史跡

いわみぎんざんいせき

〈大田市〉

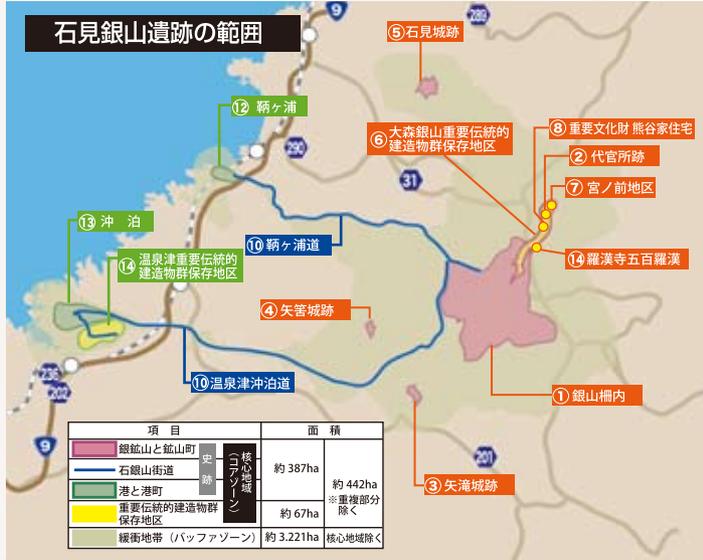
世界に誇る鉱山遺跡

石見銀山遺跡

【所在地】大田市大森町・仁摩町・温泉津町 【アクセス】大森町:出雲ICから車で1時間/鞆ヶ浦:出雲ICから車で1時間/沖泊:出雲ICから車で1時間15分

石見銀山遺跡は、大永六年(1526)に博多の豪商神屋寿禎(かみやじゅてい)によって発見されて以来、大正十二年(1923)の休山まで約400年にわたって採掘されてきた日本を代表する鉱山遺跡です。

16世紀半ばから17世紀前半の全盛期には、世界の産銀量の約3分の1を占めた日本銀のかなりの部分が石見銀山で産出されたものであったと考えられています。平成十九年(2007)七月には「石見銀山遺跡とその文化的景観」として、国内では14件目、鉱山遺跡としてはアジアで初めての世界遺産に登録されました。



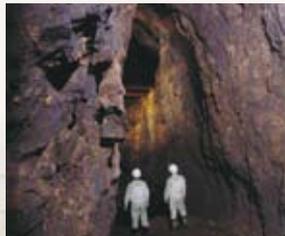
① 銀山柵内(ぎんざんさくのうち)

16世紀前半から本格的に開発され、20世紀前半まで操業された銀鉱山遺跡の本体です。江戸時代初め、柵で厳重に囲まれていたことからこの名があります。銀の生産活動はもちろん、生活・流通・信仰・支配に関わる遺構・遺物が良好に残っています。

大久保間歩

おおくぼまぶ

石見銀山の中で最大級の間歩(坑道)です。江戸時代の手掘りのノミ跡や明治時代に発破などで拡幅した跡がみられます。



【有料公開施設】※要事前予約

龍源寺間歩

りゅうげんじまぶ

江戸時代中期、代官所直営の間歩「御直山(おじきやま)」として操業されました。壁面に残るノミの跡が当時の様子を物語っています。

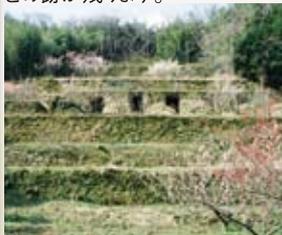


【有料公開施設】

清水谷製錬所跡

しみずだにせいれんじょあと

明治二十八年(1895)、藤田組によって建設された大型の製錬所跡です。周囲には鉱夫住宅・変電所・選鉱場・トロッコ道などの跡が残ります。



② 代官所跡

17世紀に銀山柵内から大森地区に移転した石見銀山支配の中枢施設跡です。1800年頃再建された表門・門長屋の建築遺構が残っています。



⑦ 宮ノ前地区(みやのまえちく)

発掘調査により、16世紀末～17世紀初頭頃の道路跡や建物跡が発見されました。24基もの炉跡が集中した工房跡も見つかっています。



※現在は埋め戻されています。

③ 矢滝城跡(やたきじょうあと) ④ 矢筈城跡(やはずじょうあと) ⑤ 石見城跡(いわみじょうあと)

石見銀山を防衛するために築かれた山城の遺構です。矢滝城跡と矢筈城跡は石見銀山街道温泉津沖泊道を挟んで対峙する位置にあり、石見城跡は仁摩方面に出る街道沿いに存在します。それぞれ中世山城の立地・形態をよく留めています。



矢滝城跡



矢筈城跡



石見城跡

⑨ 羅漢寺五百羅漢(らかんじごひゃくらかん)

岩盤斜面に3箇所の石窟があり、中央窟に石造釈迦三尊仏を、左右両窟には250体ずつの石造羅漢坐像を安置しています。18世紀中頃の制作で、3基の石橋や1基の祈念塔を含め、石見銀山の石工技術をよく表した貴重な石造作品です。

◆港と港町◆

⑫ 鞆ヶ浦(とまがうら)



16世紀前半から中頃にかけて銀・銀鉱石を博多に積み出した港です。船の係留用に岩盤をくり抜いた鼻ぐり岩などが残ります。繁栄した頃の土地利用を引き継ぐ集落景観も貴重です。

⑬ 沖泊(おきどまり)



主に16世紀後半の約40年間、銀の輸送や石見銀山への物資補給などの目的で機能した港です。2つの城跡や鼻ぐり岩などが残ります。集落は往時の土地利用を今に引き継いでいます。

◆石見銀山街道◆ ⑩ 鞆ヶ浦道 ⑪ 温泉津沖泊道 石見銀山街道については16ページで紹介しています。

◆史跡を除く石見銀山関連文化財◆

⑥ 大森銀山重要伝統的建造物群保存地区 銀山に隣接して発展した、江戸時代幕府直轄地の石見銀山附(つき御料(ごりょう))150余村の中心町です。武家・商家の旧宅や、社寺などが混在してよく残っています。昭和六十二年に重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。

⑧ 重要文化財 熊谷家(くまがいか)住宅 大森地区における最大規模の商家建築です。有力商人の地位や生活の変遷を最もよく示しています。熊谷家の暮らしを中心とした展示があり、一般公開されています。

⑭ 温泉津重要伝統的建造物群保存地区

石見銀山の外港として発展した温泉のある港町。江戸時代以来の町割りをよく残し、町屋、廻船問屋、温泉旅館、社寺等の伝統的建造物がよく残っています。平成十六年、温泉町としては日本ではじめて、重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。

津和野郷土館

藩政資料等が展示されています。平成十九年に登録有形文化財に登録されました。

【所在地】津和野町大字森村127 【電話】0856-72-0300
 【休館日】毎週火曜日、冬季(12月~3月) 【開館時間】8:30~17:00
 【駐車場】有り(3台) 【入館料】一般400円、中高生300円、小学生以下150円
 【アクセス】JR津和野駅から徒歩で10分/六日市ICから車で1時間



森鷗外記念館

史跡森鷗外旧宅に隣接しています。鷗外の著作や遺品等が展示されています。

【所在地】津和野町町田イ238 【電話】0856-72-3210
 【開館日】12月~3月中旬は毎週月曜日、1/29~12/31 【開館時間】9:00~17:00
 【駐車場】有り(30台) 【入館料】一般600円、中高生400円、小学生250円
 【アクセス】「森鷗外旧居前」バス停から徒歩すぐ/六日市ICから車で1時間



津和野町歴史民俗資料館

農機具や漁業の道具、食器、玩具、衣類などの生活用品が展示されています。

【所在地】津和野町枕瀬218-1 【電話】0856-74-0933
 【開館日】4月~11月の土日、祝日のみ開館 【開館時間】8:30~17:00
 【駐車場】有り(40台) 【入館料】一般200円、中高生100円、児童50円
 【アクセス】JR日原駅から徒歩で15分/六日市ICから車で50分



益田市立歴史民俗資料館

大正十年建築の美濃郡役所を改装して、中世益田氏関連遺跡の遺物や民俗資料などが展示されています。

【所在地】益田市本町6番8号 【電話】0856-23-2635
 【休館日】火曜日・祝日の翌日、12月29日~1月3日 【開館時間】9:00~17:00
 【駐車場】有り(10台) 【入館料】一般200円 高校生以下無料
 【アクセス】「折戸」バス停から徒歩すぐ/JR益田駅から車で10分



石見銀山資料館

江戸幕府が支配拠点施設とした代官所跡の敷地に建つ資料館です。石見銀山で使用された採掘工具や古文書、鉱石、絵巻などが展示されており、当時の石見銀山の様子を学ぶことができます。

【所在地】大田市大森町八51番地1 【電話】0854-89-0846
 【休館日】年末年始、特別展前後 【開館時間】9:00~17:00
 【駐車場】なし 【入館料】一般500円、小人200円
 【アクセス】「大森代官所跡」バス停から徒歩すぐ/出雲ICから1時間、三次ICから1時間30分



石見銀山世界遺産センター

「世界遺産石見銀山遺跡」の価値や魅力、全体像をわかりやすく紹介する銀山の拠点施設です。町並みや遺跡等の現地を訪れる前の事前学習に最適です。

【所在地】大田市大森町イ1597番地3 【電話】0854-89-0183
 【休館日】毎月最終の火曜日、年末年始 【開館時間】8:30~17:30
 【駐車場】有り(400台) 【入館料】一般300円、小中学生150円
 【アクセス】「世界遺産センター」バス停から徒歩すぐ/出雲ICから1時間、三次ICから1時間30分



浜田市浜田郷土資料館

浜田の歴史や人々の生活などに関する資料を展示しています。

【所在地】浜田市黒川町3746番地3 【電話】0855-23-6453
 【休館日】月曜、祝日の翌日、12月29日~1月3日 【開館時間】9:00~17:00
 【駐車場】有り(2台) 【入館料】無料
 【アクセス】JR浜田駅より徒歩で約10分
 道の駅「ゆうひパーク浜田」から車で約10分



浜田市金城歴史民俗資料館

たたらや周辺遺跡から出土した考古資料などを展示しています。

【所在地】金城町波佐イ438番地1 【電話】0855-44-0146
 【休館日】月曜日~金曜日、12月29日~1月3日 【開館時間】9:00~17:00
 【入館料】一般300円、中・高・大学生100円、小学生60円
 【駐車場】有り(30台)
 【アクセス】「東谷下」バス停から徒歩で約1分
 金城PASスマートICから車で約20分



江津市郷土資料館

江津市の考古資料をはじめ民俗資料などを展示しています。

【所在地】江津市江津町995 【電話】0855-52-2501
 【休館日】土・日・祝日、年末年始 【開館時間】9:30~17:00(要事前連絡)
 【駐車場】あり(10台) 【入館料】無料
 【アクセス】JR江津駅から徒歩で10分/江津ICから車で3分



邑南町郷土館

町指定有形文化財の考古資料の他、別館には『天秤ふいご』を展示しています。

【所在地】邑南町下亀谷210 番地 【電話】0855-83-1580
 【休館日】月曜日及び祝日の翌日、年末年始 【開館時間】9:30~16:00
 【駐車場】有り(30台) 【入館料】無料
 【アクセス】道の駅「瑞穂」から徒歩で約5分/大朝ICから車で15分



おすすめ 幕末・近代を 訪ねるコース

- ▼ 浜田城跡 車で1時間
- ▼ 岸静江国治の墓及び扇原関門跡 車で50分
- ▼ 津和野藩校養老館 車で3分
- ▼ 森鷗外旧宅 徒歩で15分
- ▼ 西周旧居

おすすめ 石見銀山と港と 街道を訪ねるコース

- ▼ やなしお道(やなしお坂登山口) 車で20分
- ▼ 石見銀山世界遺産センター 車で5分
- ▼ 代官所跡(石見銀山資料館) 車で15分
- ▼ 沖泊 車で10分
- ▼ 鞆ヶ浦

国史跡

こいずみやくもきゆうきよ

〈松江市〉

八雲がセツと暮らした家

小泉八雲旧居

【所在地】松江市北堀町315 【アクセス】「小泉八雲記念館前」バス停から徒歩すぐ/JR松江駅から車で10分

江戸時代中頃に建てられたと推定される旧士族の屋敷で、英語教師として松江にやって来た小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が、明治二十四年(1891)六月～同年十一月までの約半年間を過ごした邸宅です。屋敷の居間からは三方に日本庭園を眺めることができ、八雲は「ある日本人の庭にて」でこの庭のことを紹介しています。ここに女中として来ていた小泉セツと結婚した後、小泉八雲として名乗ることとなりました。



小泉八雲旧宅

県有形文化財

こうんかく(まつえきようどかん)

〈松江市〉

城内にたたずむ白い迎賓館

興雲閣(松江郷土館)

【所在地】松江市殿町1-59 【アクセス】「松江城(大手前)」バス停から徒歩5分/JR松江駅から車で10分



興雲閣

明治三十六年(1903)に松江市が工芸品陳列所として建てたもので、当初から明治天皇行幸時の御宿所として建築されたため、装飾の華麗な建物となりました。松江城内という場所に建ち、木造白塗りの洋館風の作りに入母屋の瓦屋根という珍しい建物で、現在は郷土の歴史・民俗資料などを展示しています。

松江郷土館【入館料】無料【電話】0852-22-3958
【開館時間】8:30～17:00【休館日】年中無休

市史跡

まつえはんしゅほりおただはるぼしよ

〈松江市〉

松江城初代城主にして堀尾家最後の藩主の墓

松江藩主堀尾忠晴墓所

【所在地】松江市栄町792 【アクセス】「幸町」バス停から徒歩3分/JR松江駅から車で15分

松江藩三代目藩主、堀尾忠晴の墓所です。寛永十年(1633)に忠晴が亡くなった際、忠晴には跡継ぎがなく堀尾家は改易されました。この忠晴墓所は、堀尾氏に代わり入国した京極忠高のはからいで築かれたものです。この墓所がある圓成寺も、忠高が国屋町にあった瑞応寺をこの地に移し、初代城主堀尾忠晴の法号にちなんで圓成寺としたものです。



堀尾忠晴墓所



保存状態が良好な松江藩の台場

網屋浜台場跡・河下台場跡

あみやはまだいばあと・かわしもだいばあと

〈出雲市〉

【所在地】出雲市十六島町、河下町 【アクセス】一畑電鉄雲州平田駅から車で約25分

江戸時代後期から幕末にかけて、幕府の命令で各藩に沿岸防備を目的とし、台場が築造されました。松江藩には約30ヶ所の台場があったとされていますが、現存する台場は十六島町にある網屋浜台場跡(出雲市十六島町)、河下台場跡(出雲市河下町)のほか、ごくわずかとなりました。網屋浜台場跡は、寛政十一年(1799)に築造されたと伝えられており、切り石を積み築造されています。河下台場跡は、文久三年(1863)に石垣と土塁で築かれた東西二つの台場からなり、両台場とも非常に残りが良く、当時のようすを伝える重要な遺跡です。



網屋浜台場跡



河下台場跡



小泉八雲記念館

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の自筆原稿や、愛用していた机などの資料を展示・公開する世界で唯一の単独施設です。



【所在地】松江市奥谷町322 【電話】0852-21-2147
【休館日】年中無休【開館時間】4月～9月:8:30～18:30
10月～3月:8:30～17:00※入館受付は閉館20分前
【入館料】一般300円、小・中学生150円【駐車場】なし
【アクセス】「小泉八雲記念館前」バス停から徒歩すぐ
JR松江駅から車で10分

来待ストーンミュージアム

古来より利用されてきた「来待石」を中心に、石にまつわる歴史・文化を紹介しています。体験施設やレストランもあります。



【所在地】松江市宍道町東来待1574-1
【電話】0852-66-9050
【休館日】火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)
【開館時間】9:00～17:00
【入館料】一般300円、小・中学生150円【駐車場】有り(80台)
【アクセス】JR来待駅から徒歩10分/JR来待駅から車で3分

八雲郷土文化保存伝習施設

産業・風俗・諸行事など、郷土の文化を保存・伝習していくための施設です。昔懐かしい民具も展示しています。



【所在地】松江市八雲町熊野799【電話】0852-54-1027
【休館日】水曜日、祝日の翌日、年末年始
【開館時間】9:00～17:00(土曜:9:00～12:00)
【入館料】一般105円、小・中学生51円【駐車場】有り
【アクセス】「熊野大社前」バス停から徒歩すぐ
JR松江駅から車で約30分

宍道菟古館

歴代松江藩主の本陣宿を務めていた木幡家が収集してきた、書画、陶磁器など、多数の美術工芸品が展示されています。



【所在地】松江市宍道町大字宍道1715-2【電話】0852-66-3245
【休館日】火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始
【開館時間】9:00～17:00
【入館料】一般500円、高校・大学生200円【駐車場】有り(100台)
【アクセス】JR宍道駅から徒歩10分
JR松江駅から車で約35分

横田郷土資料館

大正末期の農家のたたずまいで生活様式、生活用品の展示をしています。



【所在地】奥出雲町下横田474番地【電話】0854-52-2680
【休館日】月曜日、祝日の翌日、12/28～1/4
【開館時間】9:00～17:00
【入館料】無料【駐車場】有り(20台)
【アクセス】「川公民館前」バス停から徒歩1分
三刀屋木次から車で40分

おすすめ 松江城と城下町の散策コース

小泉八雲旧居

▼……………徒歩で25分
(北惣門橋・塩見縄手経由)

興雲閣(松江郷土館)

▼……………徒歩で3分

松江城天守閣

▼……………徒歩で20分(稻荷橋経由)

小泉八雲旧居

◆ 隠岐国の近世・近代遺跡 ◆

近世の隠岐は、当初は堀尾氏、次いで京極氏が国主として治め、寛永十五年（1638）からは松平氏が幕府からの預地として治めました。耕作地の狭い隠岐では、それを補うため4枚の畑で放牧と稗・大豆・小豆・麦の輪作を行う「牧畑」と呼ばれる独特の農法が行われました。しかし天領でありながら松江藩の預地であることから、飢饉の際には適切な対策がとられず、多くの犠牲者が出ました。一方で港は、北前船の絶好の風待港として賑わい、島前の焼火神社は海上安全の守護神として尊崇されました。

近世から近代に向う明治元年（1868）に有名な「隠岐騒動」がありました。これは隠岐の神官と庄屋達が松江藩の郡代を追放し、自治機関を設立した出来事です。松江藩は隠岐に出兵して奪回しますが、鳥取藩、薩摩藩、長州藩が仲介して松江藩兵は撤退し、自治機関は復活し、明治二年（1869）まで存続しました。

近世・近代の文化財には、郡役所や民家などの建造物あります。



村史跡 〈知夫村〉
赤はげ山の名垣
(あかはげやまのみようがき)
牧畑の境界として垣を作るのに石が使用されています。地主が小作人を夫役して築造させたもので、小作人の苦勞を示すと共に牧畑の境界の古態として貴重な遺跡です。高さは1.5～2m、幅1.5m、長さは1kmにも及びます。



町史跡 〈西ノ島町〉
焼火神社旧参道竈所石垣
(たくひじんじやきゆうさんどうごもりしよしがき)
隠岐島で、時代的に古く、かつ最大規模の石垣です。現在でも構築が困難な場所に完成させた焼火信仰の盛んさを証するもので、驚くばかりです。



町有形文化財 〈海士町〉
村上助九郎邸
(むらかみすけくろうてい)
村上家は、承久の乱（1221年）により配流となった後鳥羽上皇に忠誠を尽くし、上皇が崩御されてからも累代忠勤として御火葬塚守部を務めている家です。

国重要文化財

ささきけじゅうたく

〈隠岐の島町〉

島後地区を代表する庄屋建築

佐々木家住宅

【所在地】隠岐の島町釜ヶ谷17番 【アクセス】「釜入口バス停」から徒歩で5分/隠岐汽船西郷港から車で15分

天保七年（1836）の建築で、隠岐地方の民家としては規模が大きく、杉皮屋根を残しています。造りは隠岐造と呼ばれるもので、江戸期の姿をよく残しています。



【電話】08512-2-1290
【休館日】12月～2月
【開館時間】9:00～17:00
【駐車場】有り
【入館料】大人 400円
中学生以下 200円

県有形文化財

きゅうすきほかさんぐんやくしよあと(おききよどかん) 〈隠岐の島町〉

明治初期の疑洋風木造建築

旧周吉外三郡役所跡(隠岐郷土館)

【所在地】隠岐の島町郡749-4 【アクセス】「水若許神社前」バス停から徒歩5分、隠岐汽船西郷港から車で20分

旧周吉外三郡役所庁舎は、明治十八年に隠岐四郡の役所庁舎として建設されました。島根県下で唯一の明治初期の疑洋風木造建築であり、全国的にも希有的なものとして、県の有形文化財に指定されています。



【電話】08512-5-2151
【FAX】08512-5-2191
【休館日】12月～2月、土日・祝日
【開館時間】9:00～17:00
【駐車場】有り(10台)
【入館料】一般300円、高・大学生200円、小・中学生100円

県有形民俗文化財

つばめのみんか

〈隠岐の島町〉

大型農家建築

都万目の民家

【所在地】隠岐の島町郡
【アクセス】「水若許神社前」バス停から徒歩5分 隠岐汽船西郷港から車で20分
元々は都万目地区にあったものを、郡地区に移築したもので、島後地区の大型農家に見られる間取りをもつ典型的な民家です。

建築年代は明確ではありませんが、幕末ごろと考えられています。



おすすめ

近世・近代の建築を訪ねるコース

旧周吉外三郡役所跡(隠岐郷土館)

▼.....徒歩1分

都万目の民家

▼.....車で30分

佐々木家住宅

◆ 近世の街道 ◆

一般的に「街道」と呼ばれる近世の道路は、中世の道路と比べて格段に整備された道でした。街道整備の要因として、まず「参観交代」が挙げられます。大名が定期的に江戸に出仕するこの制度により、往復のための街道が整備され、宿駅などの施設が設けられました。更に、経済の発達により、民衆の往来も盛んとなり、街道や宿場などの発展が促されました。

国史跡

山陰を貫く幹線道路

さんいんどう(のさかとうげこえとくじょうとうげこえ) 〈津和野町〉

山陰道(野坂峠越・徳城峠越)

【所在地】津和野町 【アクセス】野坂峠越:道の駅津和野温泉なごみの里から徒歩で30分 徳城峠越:「小瀬」バス停から徒歩で30分/六日市ICから車で1時間

山陰道は、京都を發し、丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見を貫き、長門国府(下関)まで通じていた街道です。津和野町内では、青原から小瀬・柳(徳城峠越)・商人・寺田・後田・中座を通過して野坂の峠に向かい、長州藩との国境に至ります。国の史跡に指定された場所は、徳城峠と野坂峠の2ヶ所であり、徳城峠は全長約3.2km、幅約3.5mで、峠には茶屋跡があります。野坂峠は全長約1.5km、幅約3~4mで、石敷きや番所跡などが確認されています。これらの峠は、いずれも江戸時代の街道の姿として良好に残っています。また、幕末の様子を描いた津和野百景図にも二つの峠が紹介されています。



野坂峠越

徳城峠越

国史跡 【歴史の道百選】

いわみぎんざんかいどう 〈大田市〉

シルバーラッシュの賑わいを今に伝える歴史の道

石見銀山街道

【所在地】大田市 【アクセス】起点となる大森町へは、JR大田市駅からバスで30分、大森下車

石見銀山で産出した銀・銀鉱石や諸物資の輸送路として使われた街道です。16世紀前半、銀山開発当初の大内氏支配期に、鞆ヶ浦が銀鉱石の積出港として機能していた頃に利用された鞆ヶ浦道(全長約7km)と、大内氏の後に毛利氏が支配するようになり、温泉津・沖泊が石見銀山支配の拠点とされた16世紀後半に、その外港として銀や諸物資の搬入のために利用された温泉津・沖泊道(全長約12km)の2本の街道があります。石畳や土橋などがよく残り、道標・石碑・石仏などもみられます。



鞆ヶ浦道

温泉津・沖泊道

【歴史の道百選】

やなしおみち 〈美郷町〉

ウォーキングに最適

やなしお道

【所在地】美郷町 【アクセス】「やなしお坂登り」まで、「灰屋」バス停から徒歩10分/石見銀山世界遺産センターから車で20分

「やなしお道」の歴史は古く、中世の文書にも記載があります。山陰・山陽を結ぶ主要な道の一つで、近世には銀を大森から尾道まで輸送するための「銀山街道」として賑わいました。近年行われた発掘調査では、真砂土と粘土を交互に重ね突き固めた「版築」工法で整備されていることが判りました。一里塚、土橋、水溜跡跡等が残るこの道は、文化庁の「歴史の道百選」にも選ばれ、一部は中国自然遊歩道として利用されています。



やなしお道

発掘調査時の様子



やなしお道区間

市史跡

つとござかのりようかいひょうちゅう 〈江津市〉

石畳の坂道

土床坂の領界標柱

【所在地】江津市江津本町 【アクセス】JR江津駅から徒歩で30分/江津ICから車で3分

土床坂は、天領(江津本町)と浜田領(嘉久志町)の引継ぎ地にあたる直進指向の強い坂道で、頂上には「従是西浜田領」の標柱が建っています。この坂道区間では元々幅1.8mほどの石畳が250mほど敷かれていましたが、現在では50mほどの区間に石畳が残っています。土床坂の頂上から江津本町へ伸びる直線道路は、往時の繁栄振りをひっそりと、現在に伝えています。



土床坂の標柱

土床坂の石畳

土床坂の領界標柱

国史跡

いじみいちりづか 〈松江市〉

近世山陰道中の旅人たちを偲ぶ

伊志見一里塚

【所在地】松江市宍道町伊志見44 【アクセス】JR荏原駅から徒歩約15分/JR松江駅から車で約35分

山陰道にあって、松江城下から西へ5里(約20km)の地点に築かれた一里塚です。道を挟んで南北に二つの塚が対峙しており、北の塚は直径約5.1m、高さ1.3m、南の塚は直径約5m、高さ0.7mあります。当時、塚には松の木が植えられており、往来する人々の目印として重要な役割を果たしていたようです。



国史跡

しゅっさいいわのいちりづか 〈斐川町〉

旅人の道しるべ

出西・伊波野一里塚

【所在地】斐川町大字神水1879番 【アクセス】JR荏原駅・直江駅から徒歩で10分/斐川ICから車で5分

徳川幕府の命により街道の両側に一里(4km)ごとに築かれたこの塚は、昔は珍しく3本の松が植えられていました。昭和二十九年の台風や四十六年の雪害により松は枯死し、現在は直径約5m、高さ1mの東西二基の塚だけが残されています。



国史跡

やすぎいちりづか 〈安来市〉

江戸時代の旅人のオアシス

安来一里塚

【所在地】安来市安来町788-819 【アクセス】安来ICから車で10分

安来一里塚は南北2つの塚からなり、それぞれの塚には松の大木が植えられていました。しかし昭和五十年代に、松食虫の被害を受けたため伐採され、現在では二代目の松が植えられています。



安来一里塚

◆ 近世の製鉄 ◆

近世の中国山地で行われていた「たたら製鉄」には、大量の砂鉄と木炭が必要でした。砂鉄は山を崩してその土砂を水に流して

採取されました。これを「鉄穴(かなな)流し」といいます。たたら用の木炭は「大炭(おおすみ)」といい、専用の炭窯で大量に生産されました。これらの材料を使い、「村下(むらげ)」の指揮監督のもと「たたら」で鉄が生産されました。「たたら製鉄」に関わる人々が住む地域を「山内(さんない)」といいました。100人前後の人々が「山内(さんない)」に住んでいたと言われています。



市史跡 〈益田市〉

泉原たたら跡(いずみはらたたらあと)「本床」「小舟」などが確認され、石見と備後地方の特徴を備えた構造であることが指摘されています。



町史跡 〈邑南町〉

智河原たたら跡(ちごうらたたらあと)幕末～大正頃に営まれた石見地域の典型的な高殿たたら跡の一つです。現地には高殿・鉄池・砂鉄置場など山内の遺構が残され、操業者であった矢上地区 三宅家所蔵の「智河原山内内図(明治四十三年)」ともよく合致しています。



市史跡 〈益田市〉

本谷山たたら跡(ほんだにやまたたらあと)文政七年(1824)から天保二年(1831)までの7年間操業された「たたら」で、地下には本床や小舟が残り、表には石畳張りの遺構が見られます。

県史跡

おんがたたらあと

〈奥出雲町〉

たたら関係遺構が集中

陰地たたら跡

【所在地】奥出雲町大谷817番外 【アクセス】「絲原記念館前」バス停から徒歩で5分/三刀屋木次ICから車で40分

谷の入口(北側)の平坦地に鉦跡や鉄穴洗い場跡が、谷奥には導水管と炭窯跡、南側高所には鉄穴切り羽跡等、各種の施設が確認されています。調査により、17世紀頃につくられたと考えられる4基の炉床が確認されました。内3基は順次つくり変えられ、その発展過程が明らかにされました。鉄の生産量が増加する近世鉦の成立する直前の形態を知るうえで貴重な遺跡です。また、周辺には、鉄穴たたら跡(絲原家前庭)、鉦垣内たたら跡など、多くの製鉄跡があり、たたら製鉄の歴史を知るうえで、重要な地域です。



国重要有形民俗文化財

すがやたたらさんない

〈雲南市〉

たたら職人たちの息吹を今に伝える

菅谷たたら山内

【所在地】雲南市吉田町吉田4210-2 【アクセス】「吉田町」バス停から徒歩で30分/三刀屋木次ICから車で30分

「菅谷たたら山内」は、たたら操業の中核となる高殿や元小屋をはじめとした製鉄関連施設や、かつてたたら製鉄に携わった人々の集落が一体となった「山内」が全国で唯一残された生産史跡です。たたら製鉄が行われた高殿や山内の景観からは、操業当時たたら製鉄に従事した人々の息吹が伝わってきます。



国史跡

たぎさくらいけたたらせいてつせき

〈出雲市〉

近世出雲たたら製鉄隆盛期の遺跡群

田儀櫻井家たたら製鉄遺跡

【所在地】出雲市 【アクセス】JR田儀駅よりタクシー利用15分、出雲ICより大田市方面へ車で30分 (宮本鍛冶山内遺跡)

田儀櫻井家たたら製鉄遺跡は、かつて田儀櫻井家の本拠地であった宮本鍛冶山内遺跡、田儀櫻井家経営のたたら跡である越堂たたら跡・聖谷たたら跡・朝日たたら跡を含めた遺跡群の総称です。

宮本鍛冶山内遺跡 (みやもとがじさんないせき)

出雲市多伎町奥田儀宮本には、かつて製鉄業で栄えた町が残されています。峡谷にコンパクトに残される遺跡群は、寺院・神社・墓などの宗教施設、田儀櫻井家当主が住居を構えた本宅跡、大鍛冶を中心とした生産跡など見所がいっぱいです。このように一箇所で製鉄関係の遺跡群が良好に残る場所は、全国でも珍しく、平成十八年一月に国の指定史跡となりました。



越堂たたら跡 (こえどうたたらあと)

出雲市多伎町口田儀に所在するたたら製鉄の遺跡です。

この遺跡は、日本海から約1kmと海から近い場所に立地し、その地理的条件を活かし、たたら原材料(砂鉄・木炭)の調達から鉄製品の搬出に至るまで、海運を利用した点が特徴的です。その姿は、現在の臨海製鉄所に通ずるものがあります。田儀櫻井家関連のたたら跡として平成二十一年二月に国の指定史跡として追加指定されました。



田儀櫻井家の特徴

田儀櫻井家は、江戸時代から明治時代まで、出雲西部地域(旧神門郡)を中心に活躍した鉄師です。日本海に近い立地から、廻船を利用した経営を行っていました。奥出雲の鉄師とは違った独自の経営方法で、地元の経済を支えていたのです。



市史跡

おおとりたたらあと

〈益田市〉

益川のたたら跡

大鳥たたら跡

【所在地】益田市美都町宇津川1481-3ほか
【アクセス】道の駅「サンエイトみと」から車で約15分

大鳥たたら跡は、正徳四年(1714)日原村の原田勤四郎が創業し、経営者の交代、栄枯盛衰はあるものの明治九年(1875)まで約160年間続きました。「吹屋床」「勘場」等の地名が残る現地には愛宕神社、ウラジロガシの巨木、関連墓所も見られます。



大鳥たたら跡



町史跡

せいぞうやまたたらあと

〈邑南町〉

邑南のたたら跡

清造山鉦跡

【所在地】邑南町上田所中の原
【アクセス】大朝Cから車で約10分

中世(14~15世紀頃)に操業されたと考えられる製鉄遺跡です。平成元年の発掘調査により、製鉄炉下の地下構造には本床状遺構と両脇に小舟状遺構と呼ばれる溝を設け、防湿・保温効果を高めていたことがわかりました。



清造山鉦跡



町史跡

かめいしたかどのたたらあと

〈奥出雲町〉

ト蔵家が経営したたたら跡

亀石高殿鉦跡

【所在地】奥出雲町竹崎1855番地1 【アクセス】「斐乃上荘前」バス停から徒歩30分/三刀屋木次ICから車で60分

船通山山麓の林道端の国有林内に存在します。昭和三十八年工事の際に発見されました。記録によれば明和元年~五年にト蔵(ぼくら)氏によって操業されたとあります。完成された高殿鉦と推定され付近の水利、地形から見ると山内の諸施設の跡と見える物もあり、今日の「日刀保たたら」に近い形式の貴重な高殿鉦の遺跡と思われる。



亀石高殿鉦跡



発掘された遺構



絲原記念館

松江藩鉄師絲原家が伝承してきた、たたら製鉄資料などが展示されています。

【所在地】島根県仁多郡奥出雲町大谷856 【電話】0854-52-0151
【休館日】年6日(3月、6月、9月下旬に各2日) 【開館時間】9:00~16:30
【駐車場】有り(100台) 【入館料】一般630円、高校・中学生420円、小・中学生315円
【アクセス】「絲原記念館前」バス停から徒歩すぐ/三刀屋木次ICから車で40分



可部屋集成館

松江藩鉄師櫻井家が歴代に渡って伝承してきた美術工芸品やたたら製鉄資料などが展示されています。

【所在地】島根県仁多郡奥出雲町上阿井1655 【電話】0854-56-0800
【休館日】月曜日及び冬期休館(詳細はお問い合わせ下さい) 【開館時間】9:00~16:30
【入館料】一般700円、大学生・高校生400円、中学生・小学生300円
【駐車場】有り(50台)
【アクセス】「内谷車庫」バス停から徒歩で3分/三刀屋木次ICから車で50分



鉄の歴史博物館

たたら製鉄の歴史や技術・人々が使っていた道具などの展示、鉄山師田部家の紹介もあります

【所在地】島根県雲南市吉田町吉田2533 【電話】0854-74-0043
【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 【開館時間】9:00~17:00
【駐車場】有り(30台) 【入館料】一般500円、小・中学生250円
【アクセス】「吉田町」バス停から徒歩で3分/「菅谷たたら山内」から車で5分



鉄の未来科学館

菅谷たたら製鉄炉の地下構造や洋式高炉の大型模型などが展示されています。

【所在地】雲南市吉田町吉田892-1 【電話】0854-52-2680
【休館日】月曜日、祝日の翌日 【開館時間】9:00~17:00
【駐車場】有り 【入館料】一般 500円 小、中学生 250円
【アクセス】「吉田町」バス停から徒歩で40分/「菅谷たたら山内」から車で8分



奥出雲たたらと刀剣館

現在操業されている「日刀保たたら」とそこで生産される「玉鋼」を用いて造られる「日本美術刀剣」の展示解説を行っています。

【所在地】奥出雲町横田1380-1 【電話】0854-52-2770
【休館日】月曜日及び12/28~1/4 【開館時間】10:00~15:00
【駐車場】有り(10台) 【入館料】一般510円、小・中学生250円
【アクセス】「横田中学校」バス停から徒歩で2分/三刀屋木次ICから車で40分



和鋼博物館

古来より鉄の積み出し港だった安来港の近くにあり、たたら製鉄に代表される鉄の歴史や文化、産業について展示しています。

【所在地】安来市安来町1058 【電話】0854-23-2500
【休館日】水曜日(祝日の場合は翌日)12月29日~1月3日 【開館時間】9:00~17:00
【駐車場】有(大型車2台、普通車約80台) 【入館料】一般300円、高校生200円小・中学生無料
【アクセス】JR安来駅から徒歩で15分/安来Cから車で10分



山陰の近世・近代遺跡分布

MAP



P 2 石見国の近世・近代遺跡と博物館・資料館

- P 3 1 津和野城跡 2 森鷗外旧居 3 西周旧居

- P 4 4 津和野藩校養老館 5 岡熊臣旧居 6 旧道面家住宅

- P 5 7 唐人焼窯跡 8 岸静江の墓及び扇原閨門 9 浜田城跡

- P 6 10 石見銀山遺跡

- P 8 11 津和野郷土館 12 森鷗外記念館 13 津和野町歴史民俗資料館
- 14 益田市立歴史民俗資料館 15 石見銀山資料館 16 石見銀山世界遺産センター

- P 9 17 浜田市浜田郷土資料館 18 浜田市金城歴史民俗資料館 19 江津市郷土資料館
- 20 邑南町郷土館

P 10 出雲国の近世・近代遺跡と博物館・資料館

- P 11 1 松江城 2 松平藩主松平家墓所

- P 12 3 小泉八雲旧居 4 興雲閣(松江郷土館) 5 藩主堀尾忠晴墓所 6 河下台場跡・網屋浜台場跡

- P 13 7 小泉八雲記念館 8 来待ストーンミュージアム
- 9 八雲郷土文化保存伝習施設 10 宍道菟古館 11 横田郷土資料館

P 14 隠岐国の近世・近代遺跡と博物館・資料館

- P 14 1 焼火神社旧参道竈所石垣 2 村上助九郎邸 3 赤はげ山の名垣
- P 15 4 佐々木家住宅 5 旧周吉外三郡役所跡(隠岐郷土館) 6 都万目の民家

P 16 近世の街道

- P 16 1 山陰道(野坂峠越) 2 山陰道(徳城峠越) 3 石見銀山街道(鞆ヶ浦道・温泉津泊道) 4 やなしお道
- P 17 5 土床坂の領界標柱 6 伊志見一里塚 7 出西・伊波野一里塚 8 安来一里塚

P 18 近世の製鉄遺跡と博物館・資料館

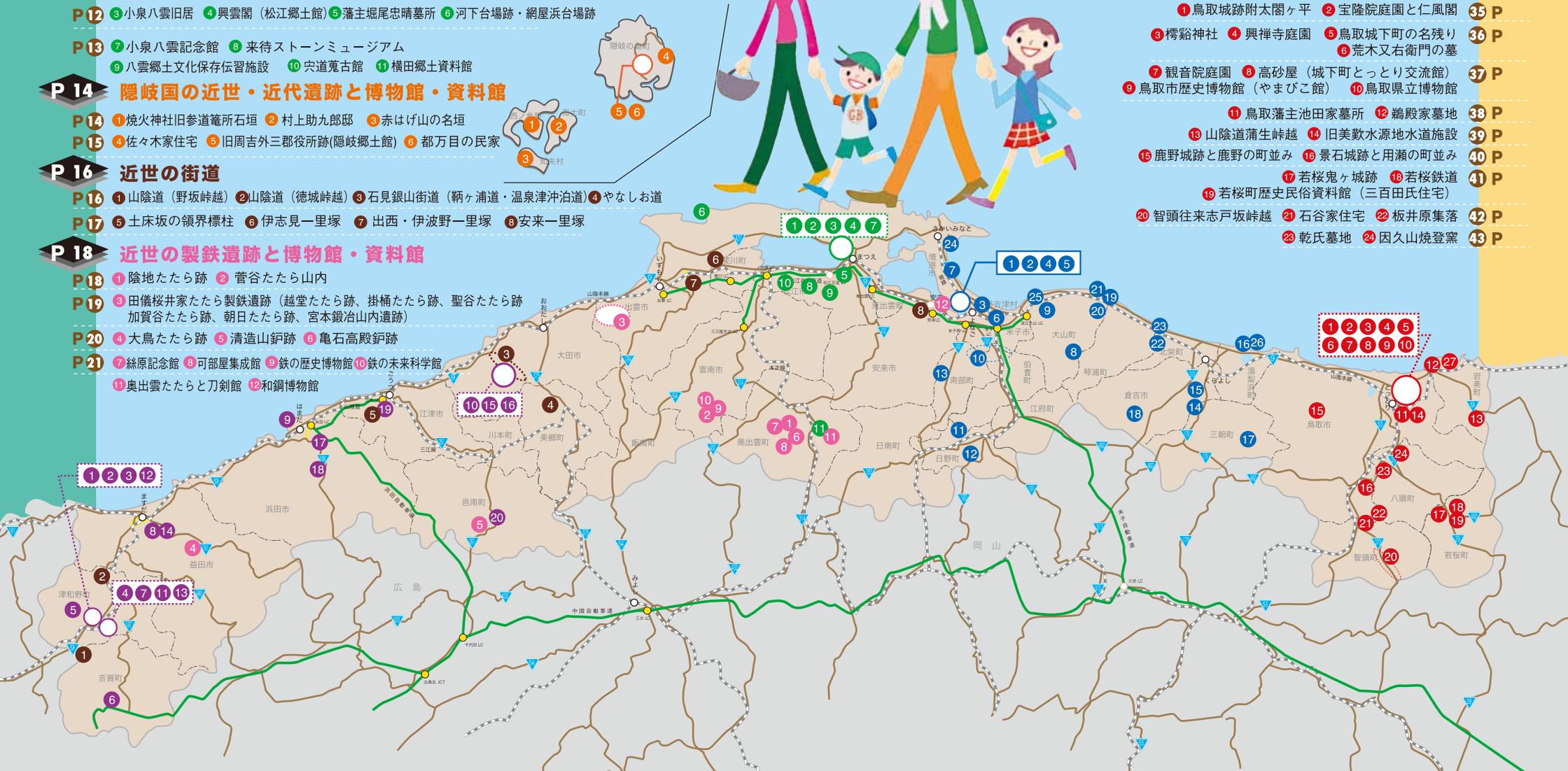
- P 18 1 陰地たたら跡 2 菅谷たたら山内
- P 19 3 田儀桜井家たたら製鉄遺跡(越堂たたら跡、掛桶たたら跡、聖谷たたら跡、加賀合たたら跡、朝日たたら跡、宮本鍛冶山内遺跡)
- P 20 4 大鳥たたら跡 5 清造山鉦跡 6 亀石高殿鉦跡
- P 21 7 絲原記念館 8 可部屋集成館 9 鉄の歴史博物館 10 鉄の未来科学館
- 11 奥出雲たたらと刀剣館 12 和鋼博物館

伯耆国の近世・近代遺跡と博物館・資料館 P 24

- 1 米子城跡と城下町 25 P
- 2 中村一忠墓地 3 荒尾家墓所 4 心光寺庭園 26 P
- 5 商家の町並みと後藤家住宅 6 深田氏庭園 7 掩体壕 27 P
- 8 大山寺・大神山神社と大古道 9 所子集落と門脇家住宅 10 佐野川用水 28 P
- 11 黒坂城跡 12 都合山たたら 13 法勝寺電車 29 P
- 14 荒尾氏墓所 15 玉川周辺の町並み 30 P
- 16 橋津の藩倉 17 三徳山 18 清水川・小鴨川砂防堰堤 31 P
- 19 八橋城跡 20 津田家墓所 21 菊港と河本家住宅 32 P
- 22 六尾反射炉跡 鳥取藩台場(23 由良台場跡 24 境台場跡 33 P
- 25 淀江台場跡 26 橋津台場跡 27 浦富台場跡)

因幡国の近世・近代遺跡と博物館・資料館 P 34

- 1 鳥取城跡附太閤ヶ平 2 宝隆院庭園と仁風閣 35 P
- 3 標谿神社 4 興禅寺庭園 5 鳥取城下町の名残り 36 P
- 6 荒木又右衛門の墓
- 7 観音院庭園 8 高砂屋(城下町とっとり交流館) 37 P
- 9 鳥取市歴史博物館(やまびこ館) 10 鳥取県立博物館
- 11 鳥取藩主池田家墓所 12 鶴殿家墓地 38 P
- 13 山陰道蒲生峠越 14 旧美敷水源地水道施設 39 P
- 15 鹿野城跡と鹿野の町並み 16 景石城跡と用瀬の町並み 40 P
- 17 若桜鬼ヶ城跡 18 若桜鉄道 41 P
- 19 若桜町歴史民俗資料館(三百田氏住宅)
- 20 智頭往来志戸坂峠越 21 石谷家住宅 22 板井原集落 42 P
- 23 乾氏墓地 24 因久山焼登窯 43 P



◆ 伯耆国の近世・近代遺跡 ◆

近世の伯耆国では、関ヶ原の戦いにより南条・吉川氏が去った後、中村一忠が伯耆 17 万石米子城主として伯耆一円を支配しました。中村氏が米子騒動などを経て一代で改易となった後は、加藤貞泰（米子）、市橋長勝（八橋）、関一政（日野）の中小大名に分割されましたが、これも長くは続かず、元和三年（1617）に姫路から池田光政が鳥取に入り、因幡・伯耆 2 国を統治することとなりました。さらに 15 年後の寛永九年（1632）には岡山藩との「お国替え」となり、池田光仲が初代藩主となりました。その後、明治四年（1871）の廃藩置県を迎えるまで、鳥取池田家 12 代によって因幡・伯耆両国は統治されましたが、藩政の中心地は藩庁のある鳥取であり、米子・倉吉など伯耆国の枢要地は重臣が実質支配する自分手政治に委ねられました。

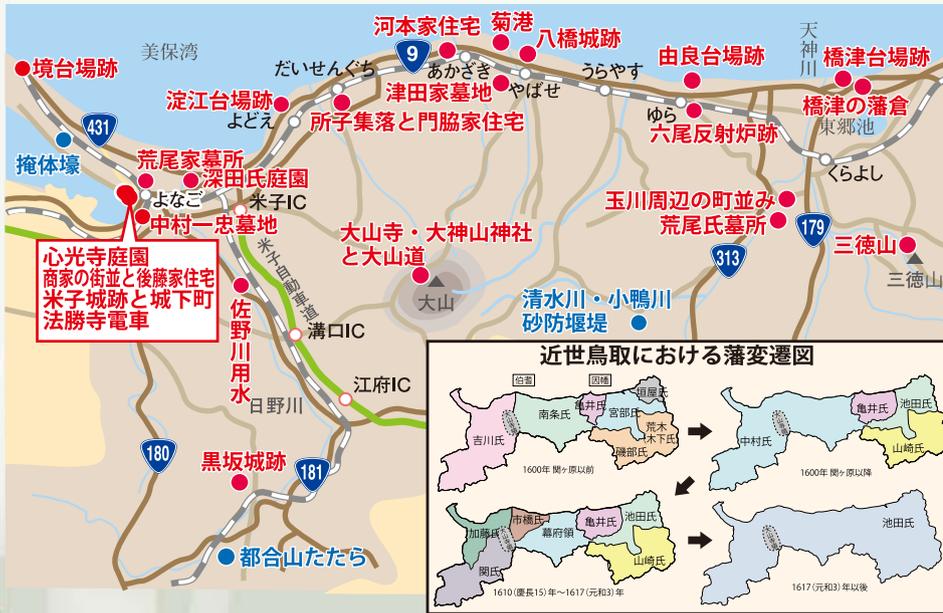
政治に関わる遺跡としては、米子城跡・黒坂城跡をはじめとする各大名や重臣の居城・陣屋跡や墓所、幕末期の国際情勢に対応するために造営された台場跡・反射炉跡などが知られています。さらに年貢米を集約する橋津藩倉などの灘御蔵や回米の積み出しなども行った菊港の防波堤なども残っています。一方、商業を中心とした倉吉の町並、農村集落としては所子集落などは伝統的な町並みが往時の面影をよくとどめ、米子では城下町の発掘調査も進んでいます。農業生産に関わる遺跡としては長者原台地の農地を養う佐野川用水などが残っています。また、伯耆国は中国山地の良質な砂鉄を原材料とした「たたら」による鉄生産が盛んであったため、山間部にはたたら遺跡が数多く残っています。

信仰にかかわる遺跡としては、大山（大山寺・大神山神社）と三徳山（三仏寺）などがあげられます。特に大山寺は寺領 3 千石を認められ鳥取藩から独立していました。

文化に関わる遺跡としては近世に遡る庭園として深田氏・庄司氏などの豪農の庭園、正善院・心光寺などの寺院庭園があります。

街道・往来としては、大山道や八橋往来などは歴史の道としてのたたずまいを残しており、古道の整備や失われたルートの調査が進められています。

明治以降の近代化遺産・近代遺跡としては、都合山たたら、法勝寺電車、旧海軍美保航空基地の掩体壕、清水川・小鴨川砂防堰堤を取り上げました。



国史跡

よなごじょうあととじょうかまち

〈米子市〉

大小天守をもつ山陰随一の名城

米子城跡と城下町

【所在地】米子市久米町96-1 【アクセス】JR 米子駅からだんだんバス「湊山公園」から徒歩5分 JR 米子駅から車で3分



往時が偲ばれる米子城石垣

米子の中心地、標高90メートルの湊山に築かれた米子城は、別名「久米城」とも呼ばれ、山陰地方で他に先駆けて築かれた本格的な近世初期の城郭です。戦国時代、飯山に砦が築かれたことが始まりと伝えられ、その後、毛利方の吉川広家によって本格的な築城が開始されました。関ヶ原の戦い後に封ぜられた中村一忠によって完成された城は、山頂に五重の天守閣と四重の副天守閣を持つ壮麗な城で、周囲には二重の堀が巡らされていました。また、麓の高台には二の丸御殿、内堀と外堀の間には武家屋敷が建ち並び、堀の外側に定められた町人町には伯耆各地の町人が移り住み、城下町として賑わいを見せていました。

明治六年、米子城は商人に売却され取り壊されてしまいましたが、西伯耆を一望できる天守台からの眺望は今尚、多くの人々から親しまれています。

現在、米子城の二の丸跡の南東側に建てられている小原家長屋門は、鳥取藩の米子城預かりであった荒尾家の家臣、小原家の屋敷の一部で、家臣などを住ませ



市指定有形文化財：小原家長屋門

るために使用された建物です。市内に残る唯一の建物で、かつては米子城下の西町にありましたが、昭和二十八年に現在の位置に移築保存されました。



伯耆国米子城絵図：天明二年（1782）



山陰歴史館



四重櫓の鯨など米子城に関連する資料を中心に展示。旧米子市役所を利用した歴史資料館です。

【所在地】米子市中町 20
【電話】(0859)22-7161
【開館時間】9:30 ~ 18:00
【休館日】火曜 祝日の翌日、年末年始
【入館料】無料
【駐車場】米子市役所駐車場※駐車券提示で 2 時間無料

市史跡

なかむらかすただ ぼち

〈米子市〉

感應寺に眠る若き米子城主

中村一忠墓地

【所在地】米子市祇園町1-89 【アクセス】JR米子駅からだんだんバス「商工中金前」から徒歩10分 JR米子駅から車で3分



山中に佇む五輪塔

中村家の菩提寺である感應寺には、中村一忠の墓地があります。11歳の若さで伯耆18万石の城主となった一忠は、慶長十四年(1609)に20歳の若さで病死し、後継ぎが無かったために中村家は断絶となりました。墓地には主君に殉死した2人の家臣も葬られ、感應寺本堂には一忠と家臣二人の木像が祀られています。



市史跡

あらおけ ぼしよ

〈米子市〉

米子城預かり荒尾家歴代の墓碑

荒尾家墓所

【所在地】米子市博労町2丁目59 【アクセス】JR境線博労町駅から徒歩3分 JR米子駅から車で5分



建ち並ぶ荒尾家代々の墓碑

祥光山了春寺の荒尾家墓所には、初代成利と10代成裕を除く2代目から13代目の荒尾家歴代の墓碑が建ち並んでいます。主席家老であった荒尾成利は、藩主池田光仲の鳥取への国替えに伴い米子城預かりを幕府から命ぜられ、以後237年間、荒尾家に米子城下町の政治が任されていました。



県名勝

しんこうじ ていえん

〈米子市〉

泉湧き出る寺院庭園

心光寺庭園

【所在地】米子市寺町39 【アクセス】JR米子駅からだんだんバス「高島屋前」から徒歩10分 JR米子駅から車で5分



※見学希望の方は事前に御連絡下さい。
心光寺：TEL (0859) 22-4590

心光寺庭園は、米子城下の寺町にある心光寺の池庭です。心光寺は、米子城主中村一忠の治世に尾高村から寺町の一角へ移されたもので、寺伝によると天保年間の作庭とされています。湧水による池は「心」の字の形に造られ、左右の岬は、鶴と亀を表現しています。また、護岸の石組みには深田氏庭園と同じ来待石が使用されており、小規模ながらも近世の寺院庭園の様子を今に伝えます。



国重要文化財

しょうかのまちなみ と ごとうけじゅうたく

〈米子市〉

商都を支えた土蔵群

商家の町並みと後藤家住宅

【所在地】米子市灘町～尾高町界隈 米子市内町72(後藤家住宅) 【アクセス】JR米子駅からだんだんバス「天神橋」から徒歩5分 JR米子駅から車で5分



蔵群と後藤家住宅

米子城下の旧加茂川沿いは、かつて米問屋、廻船問屋などの屋敷が建ち並び、米子港とを結ぶ水上交通路として賑わっていました。旧加茂川を含む旧外堀沿いには、現在も多くの土蔵が残されています。なかでも江戸時代を通じて活躍した廻船問屋後藤家住宅(国重要文化財)は、江戸中期に建てられた町家で、周辺の町並みとあわせて商都米子の姿を今に伝えています。



国名勝

ふかだしていえん

〈米子市〉

中世より続く豪族の庭

深田氏庭園

【所在地】米子市車尾5-6-22 【アクセス】JR米子駅から路線バス「車尾小学校北口」から徒歩5分 JR米子駅から車で5分



※見学希望の方は事前に御連絡下さい。
深田家：TEL (0859) 33-3445

深田氏庭園は、中世以来伯耆の開拓に携った豪族深田氏の庭園です。元弘二年(1332)に後醍醐天皇が隠岐へ流される際に立ち寄ったと伝えられています。庭園内に三尊組石を配置し、池中には鶴や亀を模した島が築かれ、仏による庇護と代々の繁栄の願いが表現されています。



おすすめ 近世米子三昧コース

- ▼ 山陰歴史館 徒歩で約10分
- ▼ 商家の町並みと後藤家住宅 徒歩で約3分
- ▼ 心光寺庭園 徒歩で約20分
- ▼ 米子城跡 徒歩で約10分
- ▼ 中村一忠墓地 徒歩で約10分

近代化遺産

〈米子市〉

掩体壕 えんたいごう



米子空港周辺には、掩体壕と呼ばれるドーム型をした鉄筋コンクリート造りの構造物が点在しています。これらは太平洋戦争中、空襲から航空機や通信機材を守るための格納庫として当時の美保海軍航空隊によって築造されたものです。

国重要文化財

だいせんじ・おおがみやまじんじやと だいせんみち <大山町>

中国地方随一の山岳寺院

大山寺・大神山神社と大山道

【所在地】大山町大山9番地ほか 【アクセス】大山IC降り口から車で20分(博労座駐車場) 博労座駐車場から徒歩15分



大山道の一つ横手道

霊峰大山は、中世より大智明権現(地藏菩薩の垂迹)を中核として庶民の信仰を集めてきました。中腹にあった天台宗の中門院・南光院・西明院の三派からなる寺院勢力は、慶長十五年(1610)に幕府から寺領三千石を安堵されると、角磐山大山寺として一山三院四十二坊を確立し、大山寺は地藏信仰と牛馬信仰の中心地として多くの参詣者が訪れ、隆盛を極めます。



重要文化財 大神山神社奥宮

しかし、明治になると大山寺は寺領を失い、さらに神仏分離政策と廃仏毀釈運動によって、大智明大権現社は大神山神社奥宮とされ、大山寺号は明治八年に廃絶されるなど、大山寺は壊滅的な打撃を受けてしまい、大山寺号の復活は、明治三十六年を待たねばなりません。僅かに残っていた僧侶が、中門院の大日堂を新本堂として大山寺を復興させたもので、以後現在に至っています。また参詣者が通った大山道のうち、川床道と横手道は現在もよく残されており、文化庁選定の「歴史の道百選」に選定されています。



国重要文化財

ところこしゅうらくとかどわきけしゅうたく <大山町>

近世農村景観

所子集落と門脇家住宅

【所在地】大山町所子360番地ほか 【アクセス】JR大山口駅から徒歩15分 大山IC降り口から車で2分

所子集落は、近世の町並みとその形成の過程を今に伝える農村集落です。大庄屋を勤めた門脇家(重要文化財)の屋敷地が集落のシンボリック的存在となっており、春秋には一般公開が行われています。



重要文化財 門脇家住宅



吉持家悲願の農業水路

さのがわようすい <伯耆町>

佐野川用水



内部には、ノミの痕が残っている

地元の豪農・吉持家が悲願とした長者原台地の開墾のために約250年をかけて文久元(1861)年に完成させた延長8.8kmの農業水路。岩山に掘られた隧道(弁財天岩トンネル)が難工事であったことを偲ばせます。

くろさかじょうあと <日野町>

5万石関家の居城

黒坂城跡

【所在地】日野町黒坂 【アクセス】JR黒坂駅から徒歩30分



黒坂城の石垣

蒲生氏郷の与力として活躍した関一政が、慶長十五年(1610)に伯耆国日野・会見・汗入5万石に国替えとなり、この時黒坂城が整備されました。

城跡は、山頂の主郭群や東側山麓部の館跡からなり、近世城郭を感じさせる石垣が見事に残ります。

もともとあった中世の山城を一政の入城に際して山裾部を整備したものと考えられています。



近代化遺産

<南部町>

都合山たたら

たたら製鉄研究の原点



たたら研究で有名な俄国一博士が詳細な調査記録を残した鉄山。明治二十二〜三十二年にかけて根雨の近藤家によって操業されました。高殿たたらをはじめとする山内の全体がよく残っており、俵博士の記録とも一致することが調査で確認されました。

近代化遺産

<南部町>

法勝寺電車

懐かしのチンチン電車



丘を切り崩してつくられた元電車軌道

大正十一年に営業を開始した米子・法勝寺間12.4kmを結んだ電気鉄道。昭和四十二年に廃線となったが、切通しの電車軌道跡やプラットフォーム、トンネル(母里線)などを現在もたどることができます。電動客車と明治二十年英国製の客車も保存されています。

おすすめ

大山の栄華を偲ぶコース

所子集落と門脇家住宅



所子集落の町並み

集落内多目的広場に駐車できます。

車で約20分

大山寺・大神山神社と大山道



大山寺から望む大山

大山の雄大な景色も魅力のひとつです。

市史跡

あらおしぼしよ

〈倉吉市〉

倉吉旧領主の眠る墓所

荒尾氏墓所

【所在地】倉吉市仲ノ町2967 【アクセス】倉吉駅からバス関金(市役所・みどり町経由) 山口線「長谷寺西口」から徒歩10分



初代を中心に立ち並ぶ墓碑

江戸時代寛永九年(1632)から幕末まで倉吉を治めた鳥取藩家老荒尾氏の墓所です。打吹山の西端、長谷寺の庫裏近くの尾根上にあり、初代嵩就(たかなり)公から九代世就(せつなり)公までの9基の墓碑が整然と配置されています。正面は初代を中心に四代まで、手前右側に六代・七代、左側に九代・五代・八代が立ち並びます。

当主の墓碑のみであることから供養

塔的な性格といわれています。墓碑は高さ約3.3mに及び、大きな自然石を加工したもので、2段の切石の基礎石の上に墓標をのせています。位牌は菩提寺の満正寺に祀られています。鳥取市景福寺にある倉吉荒尾氏墓所には、代々の当主のほか奥方や係累の方々の墓碑が数十基林立しています。「倉吉荒尾氏墓所附位牌群」として平成十八年市指定となりました。



国重要伝統的建造物群保存地区

たまがわしゅうへのまちなみ

〈倉吉市〉

町人文化の香る伝統的町並み

玉川周辺の町並み

【所在地】倉吉市魚町・砥屋町ほか 【アクセス】倉吉市役所から徒歩5分 駐車場・琴桜観光駐車場



旧倉吉市街地は、打吹山の北麓を東西に細長く形成されています。この町並みは戦国時代の打吹城下町をもとに、江戸時代に陣屋町として整備されたものが土台となっています。倉吉は江戸時代から明治・大正時代にかけて木綿と稲扱千刃の産地として繁栄した商工業都市でした。町家は東から本町通り、岩倉町通り、河原町通りと連なり、明治から昭和戦前の歴史的景観を今に伝えています。

東寄りの約4.7haが伝統的建造物群保存地区として選定されています。表側の切妻造、平入の主屋が建ち並び本町通りと、裏側の白壁土蔵群と石橋が連続する玉川沿いからなります。

赤褐色の石州瓦の屋根、軒まわりの海老状に曲がった腕木や持送り、腰格子や繊細な出格子等の豊かな意匠に地獄的特色が現れています。



県保護文化財

はしづのはんそう

〈湯梨浜町〉

全国で数少ない現存する灘蔵

橋津の藩倉

【所在地】東伯郡湯梨浜町大字橋津173-2ほか 【アクセス】倉吉駅からバス橋津線「橋津中央入口」から徒歩5分 青谷羽合道路羽合ICから車で5分



天保十四年の棟札の残る古御蔵

湯梨浜町橋津には山陰地方で唯一、藩政期の御蔵が現存しています。こうした御蔵はほかに岩手県盛岡市、熊本県熊本市、宇土市等にわずかに残るのみとなっており、全国的にもたいへん貴重なものです。橋津御蔵の最盛期には14棟の土蔵と1棟の計屋が軒を連ね、近郷から最大で約5万俵の年貢米を収納

したといわれています。これらの米は船で大阪に運ばれ、鳥取藩の財政を潤しました。現在は「古御蔵」「三十間北蔵」「片山蔵」の3棟のみとなりましたが、「古御蔵」には建築年代を特定する「古御蔵式番御建替」「天保十四癸卯年五月出来」の棟札が残されており、蔵とあわせて歴史を伝えています。



県保護文化財

みとくさん

〈三朝町〉

山上に点在する社寺建築

三徳山

【所在地】東伯郡三朝町三徳1010

【アクセス】倉吉駅から三徳山行きバスで40分 「三徳山参道入口」または「三徳」下車

平安時代以来多くの人々の信仰の対象となってきた三徳山は、因幡伯耆2国の領主となった鳥取池田家からも庇護を受け、藩主のための祈祷等を行っていました。山内には、江戸時代に建てられた三仏寺本堂をはじめとする江戸時代の建造物6棟のほか、当時を偲ぶ多くのものが残されています。



●三徳山
【参詣料】400円
【入山料】200円
(各種割引有)

【入山条件】
2名以上
(登山可能な靴・服装)
荒天時は不可。



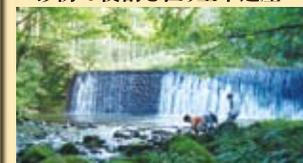
県保護文化財：三仏寺本堂

近代化遺産

国登録

〈倉吉市関金町〉

清水川・小鴨川砂防堰堤
砂防の役割を担う土木遺産



鳥取県三大河川の一つ、天神川の上流に設けられた堰堤で、昭和九年の室戸台風の大水害を契機に昭和十二~十九年に建設されました。災害との闘いを知る貴重な近代化遺産です。清水川の上流部に位置する第五堰堤は堤長約63m、堤高約4mの規模です。堰堤は深い樹林に囲まれ清流が流れ落ち、自然と調和しています。

清水川堰堤4基、小鴨川堰堤3基は国登録有形文化財に登録されています。

町史跡

やばせじょうあと 〈琴浦町〉

5万石関家の居城

八橋城跡

【所在地】琴浦町八橋
【アクセス】JR 八橋駅から徒歩5分



八橋城跡全景



今も残る石垣

戦国時代、毛利氏と尼子氏との勢力争いの舞台となった八橋城は、慶長五年(1600)の関ヶ原の合戦以降、中村氏・市橋氏・池田氏(光政)とその領主を変えていき、元和三年(1617)、一国一城令のため廃城となります。

その後池田光仲が入国した後は、明治をむかえるまで着座家である津田家の陣屋が置かれていました。

現在は、山陰線に一部壊されてしまっていますが、所々にこのころ石垣から往時を偲ぶことができます。

町史跡

つたけぼしよ 〈琴浦町〉

津田家墓所

【所在地】琴浦町八橋1336
【アクセス】JR八橋駅から徒歩10分



津田家は、鳥取藩士の家格のうち最も格式の高く家老職に就くことのできる「着座家」のひとつであり、米子荒尾家、倉吉荒尾家、鶴殿家(浦富)、乾家(船岡)などともに、領地を藩主から預り、直接町政を行うことができる「自分手政治」が許されていました。

津田家の菩提寺である体玄寺には、歴代津田家当主の墓が整然と並んでいます。



県保護文化財

町人文化の香る伝統的町並み

きくみなととかわもとけじゅうたく 〈琴浦町〉

菊港と河本家住宅

【所在地】菊港:琴浦町赤碕 河本家住宅:琴浦町筥津38
【アクセス】菊港:バス停「赤碕地区公民館」より徒歩3分 河本家住宅:バス停「筥津」下車すぐ



玉石積み波止場

承応年間(1652~1655)に鳥取藩の藩倉と船番所が置かれた菊港は、鳥取十湊のひとつにも数えられた重要な港でした。現在も漁港として機能しているこの港の波止場は、江戸時代に造られた人頭大の玉石を積み上げた玉石積みのもので、代々大庄屋を務めた旧家である河本家住宅(県保護文化財)とともに、江戸時代赤碕地区の面影を今に伝えています。



※河本家住宅は年2回(春・秋)開催される一般公開で見学できます。



国史跡

町史跡

とっとりはんたいばとむつおはんしゃるあと 〈各所〉

幕末の混乱期に造られた海の備え

鳥取藩台場と六尾反射炉跡

【所在地】由良台場跡:北条町由良宿東浜1457(お台場公園)/境台場跡:境港市花町101ほか(台場公園)/淀江台場跡:米子市淀江町今津267-1
橋津台場跡:湯梨浜町長瀬2032(東郷湖羽合臨海公園)/浦富台場跡:岩美町浦富2250-2ほか 【アクセス】由良台場跡:JR由良駅から徒歩30分
/境台場跡:JR境港駅から徒歩20分/淀江台場跡:JR淀江駅から徒歩10分/橋津台場跡:JR倉吉駅から車で20分/浦富台場跡:JR岩美駅から徒歩30分



由良台場跡



境台場跡

江戸時代末期、諸外国との緊張関係のなかで、海防意識の高まりから幕府・諸藩は各地の沿岸部に台場(砲台)を築いていきました。鳥取藩は領内の海岸線東西40里のうち、枢要箇所8ヶ所に台場を築造し、由良に造られた六尾反射炉(町指定史跡)で生産された大砲が配備されました。藩内で築かれた8ヶ所の台場のうち、現在5ヶ所が国史跡にされています。なかでも、由良台場跡は、西洋式の城郭築城技術を取り入れた鳥取藩台場の特徴をよく残しており、現在お台場公園として人々に親しまれています。



おすすめ

海に関する施設を巡るコース

橋津の藩倉

由良台場跡

津田家墓所
菊港

車で約15分

車で約10分

車で約10分

◆ 因幡国の近世・近代遺跡 ◆

関ヶ原の戦い後の因幡国では、亀井氏（鹿野）を除く諸大名が因幡の地を追われ、新たに池田長吉（鳥取）、山崎家盛（若桜）が入封しました。さらに元和三年（1617）に姫路から池田光政が鳥取城に入り、因幡・伯耆2国を統治することとなると、鹿野城・若桜鬼ヶ城は一国一城令により廃城となりました。15年後の寛永九年（1632）には、岡山藩主池田忠雄が30歳の若さで急逝した際に、長子であった勝五郎（後の池田光仲）はわずか3歳であったため、幕府の命を受けて因幡・伯耆へ、従兄である池田光政は岡山に移封する「お国替え」が行われました。その後、明治四年（1871）の廃藩置県を迎えるまで、鳥取池田家12代によって因幡・伯耆32万石が統治されました。

因幡国の政治に関わる近世遺跡としては、各大名の居城跡があり、特に若桜鬼ヶ城跡は廃城時の様相をよく留めています。鳥取には藩政の中心であった鳥取城跡を核とした鳥取藩あるいは池田家関連の遺跡が多く知られています。城内の宝隆院庭園、藩主菩提寺の興禅寺庭園、祈願寺でもあった観音院庭園などです。現在、城跡には明治四十年に池田侯爵が皇太子行幸のために建設した洋館・仁風閣があります。池田光仲が勧請した因州東照宮（現禰谿神社）は、森厳な佇まいを今に伝えています。城下町を離れると藩主池田家の墓所をはじめとする重臣たちの墓所、幕末期の海外情勢に対応した浦富台跡などが各地に残っています。また、因久山焼は藩御用窯の伝統を引き、江戸時代に築かれた登窯が現役で用いられています。

鳥取の城下町は地震と大火でその多くが失なわれていますが、わずかに残る武家屋敷や荒木又右衛門の墓などに往時をうかがうことができます。宿場町としての智頭をはじめ、鹿野・用瀬などは歴史的な町並みを残しており、板井原集落は手付かずの山間集落の佇まいを留めています。

街道・往来としては、但馬国境の山陰道蒲生峠越や参勤交代に用いられた智頭往来志戸坂峠越などに往時の古道が残り、歴史の道としても親しまれています。

明治以降の近代化遺産・近代遺跡としては、仁風閣のほか鳥取の水がめとしてライフラインを支えた旧美歎水源地水道施設や若桜鉄道（旧国鉄若桜線）・石谷家住宅を取り上げています。



重要文化財 東京に残る大名家上屋敷の名残り 旧因州池田屋敷表門（黒門）

東京上野公園の東京国立博物館構内には、鳥取藩池田家江戸上屋敷の表門が移築・保存されており、当時の栄華を偲ぶことができます。



国史跡

とっとりじょうせきつけたりたいこうがなる 〈鳥取市〉

戦国時代末期から近世までの政治的・軍事的拠点

鳥取城跡附太閤ヶ平

【所在地】鳥取市東町ほか 【アクセス】J鳥取駅から日ノ丸・日交バス砂丘方面行き「西町」下車5分 ループ麒麟獅子バス「鳥取城跡」下車2分



鳥取市のランドマークとして親しまれている



鳥取城古写真（二ノ丸）

鳥取城跡は、性格の異なる二種類の遺跡で構成されています。16世紀半ばといわれる成立以降、天正八・九年（1580・81）に羽柴（豊臣）秀吉の侵攻までの久松山頂中心の“土の城”（中世城郭）と、それ以降江戸時代にかけての山裾を中心に石垣で構成された“石の城”（近世城郭）です。

現在の石垣の城は、秀吉の侵攻以後に配置された武将宮部継潤・長照父子が土台を、慶長五年（1600）の関ヶ原の戦い後に入った徳川方の武将池田長吉が基礎を整え、元和三年（1617）姫路城より移封した池田光政により完成しました。



寛永九年（1632）光政と交代した岡山城の池田光仲入城後は32万石鳥取池田家の治世となり、度重なる増改築を経て幕末へと至りました。享保五年（1720）の石黒大火では建物の大半を焼失し、再建後は三ノ丸を中心とした城整備が行われました。

明治時代に入ると建物は順次取り壊され、明治十二年（1879）の二ノ丸三階櫓の解体をもって完了しました。石垣は、昭和十八年の鳥取大地震により城内各所で大きな被害を受けており、現在、順次修理工事を行っています。

市指定名勝・国重要文化財

ほうりゅういんていえんとじんぶうかく 〈鳥取市〉

川藩主による近代建築

宝隆院庭園と仁風閣

扇御殿と庭園は、第13代鳥取藩主夫人の宝隆院を慰めるために造営されたものです。庭園（市指定名勝）は、江戸時代末期に定型化した池泉庭園の典型的な構成と、池や中島周辺の庭石配置などには京風の精錬された手法が感じられます。

扇御殿の跡地には、明治四十年に皇太子（のちの大正天皇）の山陰行啓の宿舎として、旧藩主池田侯爵家によって仁風閣（重要文化財）が建てられました。仁風閣は、片山東熊の設計で、ルネッサンス様式を基調とした木造二階建で、山陰地方における数少ない明治洋風建築物として貴重です。



鳥取城跡内にある宝隆院庭園と仁風閣

国重要文化財

おうちだにじんじゃ〈鳥取市〉

榑谿神社

鳥取池田家の勧請した東照宮

【所在地】鳥取市上町87

【アクセス】鳥取駅から循環バスくる梨「榑谿公園やまびこ館」下車5分



東照大権現（徳川家康）を祀る

池田光仲国替え後、日光東照宮の分霊を祀る社殿を造営した、慶安三年(1650)の創建で、本殿・唐門・幣殿・拝殿は、国指定重要文化財となっています。本殿は、入母屋造の檜皮葺。唐門・幣殿・拝殿は柿葺。建物の細部の手法は、日光東照宮にならった華麗なもので一部に彩色塗・本漆塗・生漆・摺漆が施され、豪華な飾り金具が各所に施されています。

市名勝

こうぜんじていえん〈鳥取市〉

興禅寺庭園

【所在地】鳥取市栗谷町10

【アクセス】鳥取駅からループ麒麟獅子バス「鳥取城跡」下車5分



宗派は、黄檗宗。本尊は、釈迦如来。鳥取藩主池田家の菩提寺で、寛永九年(1632)藩主池田光仲の移封とともに岡山より移転してきました。庭園形式は、池泉観賞式の武家書院造り庭園で、北側に見事な築山を配し、下に東西に細長い池を設けています。江戸前期のものですが、ところどころに室町時代の作風を生かした美しい庭園です。

市保護文化財

とっとりじょうかまちなごり〈鳥取市〉

鳥取藩32万石の藩邸 鳥取城下町の名残り

【所在地】鳥取市東町・西町ほか

【アクセス】鳥取駅から徒歩5分(若桜橋)

湿地帯に面して小規模な集落が形成されていた久松山麓に、現在の中心市街地の原型となる城下町の造営がはじまったのは、池田光政時代の元和五年(1619)のことです。国替の後、鳥取池田家によって完成され、外郭として開削された袋川や若桜街道・智頭街道・鹿野街道などは、江戸時代の都市構造をそのまま伝えており、特に山麓の寺院群や武家町・町人町などの町割は比較的好く残されています。昭和十八年の鳥取大震災、昭和二十七年の鳥取市大火災等の災害を経ながらも、箕浦家の武家門(市保護文化財)等、少数ながら当時の建造物も残されています。



移築された箕浦家武家門

あらかまたえもんのはか〈鳥取市〉

荒木又右衛門の墓

「伊賀上野の仇討ち」

【所在地】鳥取市新品治町176 【アクセス】鳥取駅から車で10分
鳥取駅から循環バスくる梨「寿町」から徒歩5分

荒木又右衛門は、江戸の三大仇討ちとして名高い伊賀上野の鍵屋の辻の仇討ちにおいて、渡辺数馬を助太刀し有名となった剣客です。その後初代藩主池田光仲に招かれ、荒木家は鳥取藩士の列に加わりました。又右衛門は、数々の時代劇・時代小説の主人公として描かれ、その墓のある玄忠寺には、現在も訪れる人が絶えません。



鳥取入切後、すぐに急死したとされる

国史跡

かんのんいんていえん〈鳥取市〉

江戸時代の名残りを残す 観音院庭園

【所在地】鳥取市上町162

【アクセス】鳥取駅から循環バスくる梨「榑谿公園やまびこ館前」下車5分



四季毎に移ろう景色も見事

宗派は天台宗。本尊は、聖観世音菩薩。鳥取藩主の祈願所で、元は栗谷にあり観音寺と号しましたが、慶安三年(1650)の榑谿神社造営にあたり、観音院と改号しました。庭園は、池泉観賞式で、池の正面には蓬萊庭園様式の亀島を大きく作り出島を鶴島に見立てています。背後にある源太夫山を借景に、月を眺める庭景は、一幅の絵画を見るようです。

高砂屋 (城下町とっとり交流館)

鳥取藩御用商人の高砂屋池内家が、明治の中頃に建てた商家を整備したもので、国の登録有形文化財に指定されています。館内では鳥取の特産品や民芸品などを販売しています。

【所在地】鳥取市元大工町1番地

【休館日】毎週月曜日(月曜祝日の場合、その翌日)、年末年始

【電話】0857-29-9024

【入館料】無料(多目的交流室利用は有料)

おすすめ 城と庭園を巡るコース

鳥取城跡

二ノ丸から徒歩5分

鳥取県立博物館

徒歩15分

興禅寺庭園

徒歩15分

鳥取市歴史博物館

徒歩5分

観音院庭園



高砂屋

鳥取市歴史博物館 (やまびこ館)

鳥取市内の歴史情報を学ぶことができる参加体験型博物館で、常設展示は「鳥取の風土」「城下町鳥取」などです。

【所在地】鳥取市上町88

【休館日】月、祝祭日の翌日、年末年始

【電話】0857-23-2140

【入館料】小・中学生・高校生 無料
一般 500円(団体割引あり)

鳥取県立博物館

鳥取県の歴史・民俗、自然、美術を学ぶことが出来る総合博物館で、旧石器時代から歴史時代までの代表的な出土品を展示しています。

【所在地】鳥取市東町2丁目124番地

【休館日】月、祝祭日の翌日、年末年始

【電話】0857-26-8042

【入館料】180円(団体割引あり)



国史跡

とっとりはんしゅ いだけぼしよ

〈鳥取市〉

鳥取藩池田家一門が静かに眠る

鳥取藩主池田家墓所

【所在地】鳥取市国府町奥谷 【アクセス】鳥取駅からバス中河原線「宮ノ下口」から徒歩10分



整然と立ち並ぶ石燈籠



鳥取藩主池田家墓所は、元禄六年(1693)、初代藩主池田光仲の廟地と定められたことから始まります。墓所内には初代から十一代までの歴代藩主のほか、藩主夫人、御分知家「東館」・「西館」当主など合わせて七十八基の墓碑が建ち並んでいます。

墓所内は墓碑の規模・形態のほか、二百六十基以上立ち並ぶ石燈籠にまで厳格な身分秩序が反映されています。なかでも、歴代藩主墓及び次期藩主になる立場でありながら、藩主となることなく亡くなった2人へのみ採用されている「亀趺円頭(きふえんとう)」という形式の墓碑は、亀形の神獣を象った台座である「亀趺」上に円筒扁平な墓標を立てた壮大な造りのもので、墓所内の他の墓と一線を画しています。

現在、この鳥取藩主池田家墓所は、三百年以上の時を経てきた歴史の重みを感じさせてくれるとともに、四季折々に変化する景色のすばらしさによって人々に親しまれる場所となっています。



亀趺(きふ)

町史跡

うどのけぼち

〈岩美町〉

浦富領主の墓所

鵜殿家墓地

【所在地】岩美郡岩美町浦富2756 【アクセス】岩美駅からバス「浦富海岸」から徒歩10分 岩美駅から車で10分、徒歩5分

鵜殿家墓地は桐山城の山麓にあり、12基の墓碑が配されています。鵜殿家は寛永九年(1632)池田光仲が岡山より国替の際、鵜殿長次は子・長之とともに光仲に随従して鳥取へ来ました。鵜殿家の所領の多くが岩井郡(現在の岩美町、鳥取市福部町)に与えられ、浦富を直領として、但馬国境・海浜の警備にあたりました。以来明治を迎えるまでの238年間、代々浦富を治めました。



国史跡

さんいんどうがもうとうげえ

〈岩美町〉

京へと続く歴史の道

山陰道蒲生峠越

【所在地】岩美郡岩美町蒲生地内 【アクセス】岩美駅からバス「蕪島」から徒歩20分 岩美駅から車で20分



当時の雰囲気をもそのまま残す

「山陰道」とは古代行政区画である五畿七道の一つで、因幡・伯耆国を含む日本海側の8ヶ国のことですが、これら諸国の国府と都をつなぐ官道のことでもあります。近世の「山陰道」は鳥取と京都を結ぶ主要街道として鳥取藩が整備し、「但馬往来」とも呼ばれ、多くの人々に利用されました。

戦国末期には因幡に侵攻する羽柴秀吉の軍勢、幕末の慶応四年(1868)春には山陰道鎮撫使の西園寺公望が蒲生峠を越えて鳥取へ向かったと伝えられています。

現在でも峠付近には「延命地藏大菩薩」の台座が残り、当時の往来の様子を今に伝えています。



赤線：指定範囲

近代化遺産

国重要文化財

旧美歎水源地水道施設

〈鳥取市〉

山陰最初の近代水道施設

旧美歎水源地は、大正四年(1915)に供用開始された山陰地方初の近代水道施設です。水道施設としては、昭和五十三年でその役割を終え、現在は砂防ダムとして利用されています。

今ものこる濾過池、堰堤、接合井、量水器などの諸施設は、近代上水道のシステムを全て残す貴重な近代遺産として、平成十九年に国の重要文化財(建造物)に指定されました。



昭和初期以前の濾過池

おすすめ 近世の静寂と自然を楽しむコース

檮谿神社

徒歩3分

鳥取市歴史博物館

車で20分

鳥取藩主池田家墓所

車で50分

鵜殿家墓地



撮影：太田忍さん

鳥取藩主池田家墓所では、毎年彼岸過ぎの時期に、全ての燈籠に火をともし灯籠会を開催しています。

市史跡

しかのじょうあととしかののまちなみ <鳥取市>

市民主体のまちなみ整備が進む

鹿野城跡と鹿野の町並み

【所在地】鳥取市鹿野町殿町ほか 【アクセス】JR浜村駅からバス(鹿野方面行)「加治町」から徒歩5分



桜の名所でもある鹿野城跡

鹿野城は、志加奴氏の築城した中世城郭をもとに、亀井茲矩が近世初頭までに石垣の城に改修し、あわせて城下町を整備しました。

鹿野城下には、山中鹿介の墓のある幸盛寺、市指定名勝となっている近世庭園の残る譲伝寺などの寺院や、城下町の構造が残されており、近年は市民を主体とするまちなみ整備が進んでいます。



市史跡

かげじょうあとともちがせのまちなみ <鳥取市>

城下町と宿駅の姿をとどめる

景石城跡と用瀬の町並み

【所在地】鳥取市用瀬町用瀬ほか 【アクセス】JR用瀬駅から徒歩90分



景石城跡

旧若桜街道に沿う用瀬の町は、はじめ景石城の城下町として造営されました。国人・用瀬氏によって南北朝期に築城され、羽柴秀吉の配下の磯部氏によって石垣が築かれた景石城跡は、現在市指定史跡となっています。江戸時代には宿駅とされ、参勤交代の際に藩主が休息した「茶屋本陣跡」のほか、宿駅の入り口に置かれていた番小屋跡などが残されています。



近世鳥取の遺宝紹介

①名称 ②展示施設



- ① 色々威胴丸 (伝鳥取藩三代藩主 池田吉泰所用)
- ② 鳥取県立博物館



- ① 若桜鬼ヶ城跡出土瓦
- ② 若桜町歴史民俗資料館



- ① 米子城鯨瓦
- ② 米子市立山陰歴史館 (個人蔵)

国史跡

わかさおにがじょうあと <岩美町>

廃城時に壊された石垣

若桜鬼ヶ城跡

【所在地】若桜町若桜1531ほか 【アクセス】若桜鉄道 若桜駅から徒歩40分 若桜駅から車で10分



廃城となり壊された石垣が今もそのままに残る



若桜鬼ヶ城跡は若桜宿の南側にそびえる鶴尾山(標高452m)に築られました。築城期は不明ですが、中期に在地領主の矢部氏によって築かれたと考えられます。鶴尾山は但馬・播磨の各街道の結節点に位置し、因幡地方の玄関口であったため、戦国期は尼子・毛利・織田などの各有力大名がこの地を巡って激しい攻防を繰り返しました。羽柴秀吉による因幡平定後は木下氏・山崎氏と城主が代わり、池田氏が鳥取城に入ると、一国一城令によって廃城となりました。

山頂には総石垣の曲輪が築かれ、廃城の際に意図的に破却された状態で残ります。また、山内には石垣遺構に先行する曲輪が残され、中世城郭としての若桜鬼ヶ城を知るうえで重要です。

近代化遺産

<若桜町>

若桜鉄道

登録文化財となった現役鉄道



若桜駅に残る転車台

若桜鉄道は JR 郡家駅から若桜駅までを結ぶ 19.2km の第3セクターの鉄道で、旧国鉄若桜線として昭和五年に全通しました。沿線にある 23 施設が国登録有形文化財となっています。「因幡船岡・隼・安部・八東・丹比・若桜」の各駅舎が登録され、若桜駅には給水塔・転車台などがあります。また、近年若桜駅構内に SL が置かれ、当時の終着駅が再現されています。橋梁は「第一～第三八東川・岩淵川・細見川・若桜川」の計 6 本が登録され、各橋梁で橋脚やプレートガーダーに特徴を持っています。また、雪や落石から線路を守る「雪覆・落石覆」も登録文化財となっています。

若桜町歴史民俗資料館

明治三十一年(1898)に開設された旧若桜銀行本舎社屋を移築・復元した建物で、若桜鬼ヶ城跡出土品などの歴史資料や水ノ山の自然資料、若桜の生活用具などを展示しています。資料館の隣には、この地方の庄屋を勤めた三百田氏の住宅が移築されています。

【所在地】若桜町屋堂羅 37
【休館日】年末年始、月曜日(祝日の場合、その翌日)
【電話】0858-82-0583
【開館時間】9:00～17:00



国史跡

ちずおうらいしとさかとうげこえ <智頭町>

鳥取藩参勤交代の道

智頭往来志戸坂峠越

【所在地】智頭町大字中原・福原・駒帰地内 【アクセス】智頭急行山郷駅下車すぐ(中原付近)智頭南ICから車で10分、徒歩20分(志戸坂峠)



今も残る石垣と水路

鳥取城下を出発して、用瀬を経て智頭町に入り、志戸坂峠を越えて岡山県西粟倉村を経由して兵庫県姫路市に至る道が智頭往来(因幡街道)と呼ばれています。智頭往来の歴史は古く、平安時代には既に官道として道が通っており、この往来は畿内と因幡地方を結ぶ特に重要な道として、江戸時代には鳥取池田藩の参勤交代の道、上方への主要道として重要な役割を担ってきました。

智頭往来は、時の流れとともに姿を消し廃道となった所もありますが、智頭町内には約21kmにわたる古道が現存しており、そのうち智頭町山郷地区に残る志戸坂峠を中心とした約2.5kmが国史跡に指定されています。現在残る峠道は、明治十九年に改修工事が行われたもので、精緻な石垣と水路が周囲の自然に溶け込み、歴史を感じながら自然を満喫することができます。



赤線：指定範囲

近代化遺産 国重要文化財

<智頭町>

石谷家住宅

豪壮な近代和風建築

現在ある石谷家の邸宅は、大正八年から約10年かけて建築された近代和風建築で、現在、国指定重要文化財「石谷家住宅」として一般公開されています。



開館時間 10:00 ~ 17:00
休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は翌日)
入館料 大人 500円、高校生 400円
小・中学生 300円
幼児・高齢者(80歳以上) 無料
(生年月日を証明するものが必要です)
※団体割引(15人以上)あり

近代化遺産 県選定伝統的建造物群保存地区

<智頭町>

板井原集落

昭和の山村風景を今に伝える



板井原集落には全部で110棟を越える建物があり、これらの建物の殆どが明治から大正にかけて建築されたものです。大工など職人の手になる本建築と自分で建てた素人造りの小屋で、当時の姿で残る伝統的建築物です。なかには掘立小屋もあって、一昔前の日本の農山村風景を彷彿とさせてくれます。

町史跡

いぬいしぼち <八頭町>

船岡を治めた着座家

乾氏墓地

【所在地】八頭郡八頭町船岡1602 【アクセス】若桜鉄道「因幡船岡駅」から徒歩20分



この他、鳥取市興禅寺に墓所がある

鳥取藩最高の家格である着座家に列する乾家は、代々家老職をつとめ、幼少であった初代藩主光仲に代わって藩政を取り仕切るなど、藩にとって重要な役割を担ってきました。

乾家は、下船岡村(現在の八頭町)で陣屋を持ち、領主として自分手政治を行うことが許されていました。

菩提寺は西来寺で、現在は廃寺となっていますが、乾家代々の墓は、現在も寺跡のそばに静かに佇み、船岡の地を見守っています。



いんきゅうざんやきのぼりがま <八頭町>

現代も続く鳥取藩御用窯

因久山焼登窯

【所在地】八頭郡八頭町久能寺 【アクセス】若桜鉄道「八頭高校前駅」より徒歩10分



現在も営まれる登窯

歴代鳥取藩主が愛用したと伝わる因久山焼は、鳥取藩の御用窯として明和年間(1764~1772)に創業されたと伝わる由緒ある窯元です。

江戸後期に4件あった窯元のうち現在一軒の窯元が残っており、江戸期の位置・形状そのままに登窯を営んでいます。

※見学希望の方は事前に御連絡下さい。 因久山焼窯元: TEL (0858) 72-0278



おすすめ 若桜鉄道で巡る コース

- ▼ 因久山焼登窯 八頭高校前駅から徒歩10分
- ▼ 乾氏墓地 因幡船岡駅から徒歩20分
- ▼ 若桜鬼ヶ城跡 若桜駅から徒歩40分
- ▼ 若桜町歴史民俗資料館 (鶴尾山山麓から) 徒歩約20分

参勤交代の道を歩く健脚コース

- ▼ 石谷家住宅 智頭町の中心にあります。 徒歩120分
- ▼ 智頭往来志戸坂峠越
- ▼ 中原付近(指定地の入口) 徒歩で30分
- ▼ 情報発信施設(福原パーキングエリア隣) 徒歩で60分
- ▼ 志戸坂峠(岡山県境)

陣屋(じんや)

3万石以下の城を持たない大名の政庁・屋敷。旗本、代官などの支配地における役宅・屋敷。大藩の家老の知行所(領地)に置かれた政庁のある屋敷。



倉吉陣屋絵図

城下町(じょうかまち)

城を中心として成立した都市。防衛都市として侍町・足軽町・町人町・寺町などが計画的に配置された。江戸時代は各地の政治・経済の中心地として発展した。



鳥取城修復願絵図(延宝8年)

一国一城令(いっこくいちじょうれい)

元和元年(1615)に幕府が制定した法令。一国に藩主が政庁とする城を残して他は廃城にするというもの。



一国一城令により壊された石垣(若桜鬼ヶ城跡)

一里塚(いちりづか)

街道の両側に1里(約4km)ごとに設けられた塚。江戸時代に江戸日本橋を起点として本格的に整備された。



昔の伊志見一里塚

池泉鑑賞式庭園(ちせんかんしょうしきていえん)

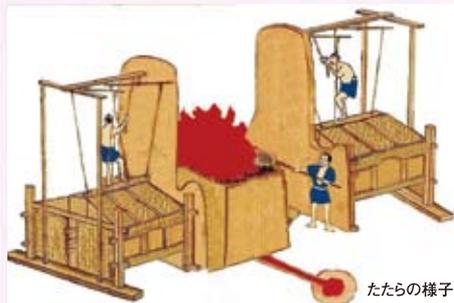
池庭を座敷などから鑑賞する庭。庭に園路を巡らせ、散策しながら鑑賞する庭を池庭回遊式庭園という。



観音院庭園

たたら跡(たたらあと)

古代から近世まで行われた、砂鉄から和鉄を製鉄するための製鉄炉・製鉄所の跡。



たたらの様子

主要参考文献

鳥取県

- ◆真田 廣 幸 1999年 『倉吉の町並み』『文化財だより第38号』
- ◆浅川 滋 男 編 1996年 『橋津の藩倉 今にのこる鳥取池田藩の灘御蔵』
- ◆鳥取県立博物館編 2004年 『特別展 鳥取藩32万石 図録』
- ◆関金町教育委員会 2005年 『関金町の文化財』
- ◆米子市教育委員会 2006年 『新米子の文化財』
- ◆鳥取県教育委員会 1989年 『鳥取県歴史の道調査報告書第一集 智頭往来』
- ◆鳥取県教育委員会 1991年 『鳥取県歴史の道調査報告書第十集 大山道』

島根県

- ◆島根県 編 1967年 『新修 島根県史』通史篇(二)近代
- ◆島根県 編 1968年 『新修 島根県史』通史篇(一)考古・古代・中世・近世
- ◆内藤 正 中 編 1997年 『図説 島根の歴史』 河出書房新社
- ◆内藤 正 中 ほか 1997年 『鳥取県の歴史』 山川出版社
- ◆松尾 寿 ほか 2005年 『島根県の歴史』 山川出版社

協力機関

鳥取県

観音院、大山寺、大神山神社、了春寺、心光寺、体玄寺、玄忠寺、鳥取市文化財団、鳥取県教育文化財団、史跡鳥取藩主池田家墓所保存会、鳥取市教育委員会、米子市教育委員会、倉吉市教育委員会、日野町教育委員会、南部町教育委員会、伯耆町教育委員会、境港市教育委員会、大山町教育委員会、湯梨浜町教育委員会、三朝町教育委員会、琴浦町教育委員会、北栄町教育委員会、岩美町教育委員会、八頭町教育委員会、若桜町教育委員会、智頭町教育委員会、鳥取県立博物館

島根県

松江市教育委員会、浜田市教育委員会、出雲市教育委員会、益田市教育委員会、大田市教育委員会、安来市教育委員会、江津市教育委員会、雲南市教育委員会、奥出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、斐川町教育委員会、川本町教育委員会、美郷町教育委員会、邑南町教育委員会、津和野町教育委員会、吉賀町教育委員会、海士町教育委員会、西ノ島町教育委員会、知夫村教育委員会、隠岐の島町教育委員会